

高等学校における教科指導の充実

家 庭 科

学んだことを生活に生かす態度を育む  
指導の工夫

栃木県総合教育センター  
平成25年3月

## ま え が き

21世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われていています。そのような時代を生きるためには、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっています。また、幅広い、活用できる生きた知識・柔軟な思考力・判断力・表現力等、変化に対応する力が必要になります。他方、各種の国際的な調査からは、我が国の児童生徒について、思考力・判断力・表現力等、知識・技能の活用、学習意欲、学習習慣・生活習慣などに課題があると分析されました。このような状況を踏まえて、平成20年1月の中央教育審議会の答申を受け、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示されました。

この新しい学習指導要領は、高等学校では平成25年度入学生から、年次進行で実施されます。総則の一部、総合的な学習の時間及び特別活動においては、平成22年度から先行して実施されています。また、数学、理科及び理数の各教科・科目については、平成24年度入学生から年次進行により先行して実施されています。各学校においては、新しい学習指導要領の理念をどのように実現していくのか、具体的な検討をすすめることが喫緊の課題です。

栃木県総合教育センターでは、基礎・基本の確実な定着を図る教科指導の在り方について研究するとともに、その成果を普及することで生徒の学力の向上に資することを目的に、平成17年度から「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」を行ってきました。今年度は、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各種調査の結果から指摘されている課題の解決を図るための授業改善について、数学科、外国語科（英語）、家庭科、農業科、工業科の各教科で調査研究に取り組みました。本冊子はその成果をまとめたものであり、教科指導を充実させる一助として、御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるに当たり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成25年3月

栃木県総合教育センター所長  
金 井 正

# 目 次

1	本調査研究の背景	1
	(1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方	
	(2) 教育内容の主な改善事項	
	(3) 学習評価の基本的な考え方	
2	新学習指要領導を踏まえた指導の工夫	5
3	学んだことを生活に生かす態度を育む指導の実践例	6
事例 1	食生活に関わる情報を適切に判断し、主体的に食生活を営む態度を育む 指導の工夫	7
事例 2	制服を通して被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育む 指導の工夫	22
事例 3	子どもを生き育てることについて主体的に考え、子どもと関わろうとする 態度を育む指導の工夫	35
4	おわりに	54

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

（「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>）

# 1 本調査研究の背景

今年度の「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」は、平成21年告示の高等学校学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各教科に求められている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探ることに重点を置き、数学科、外国語科（英語）、家庭科、農業科、工業科で実施するものである。

各教科で調査研究した内容を次章以降に提示するに当たり、まず、平成21年告示の高等学校学習指導要領改訂の基本的な考え方、教育内容の主な改善事項及び学習評価の基本的な考え方について整理する。

## (1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方

平成21年告示の高等学校学習指導要領の改訂では、21世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るため、「生きる力」をはぐくむという教育課程の基準全体の見直しを図った。今回の改善の方向性は、平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」に示されている。答申では、以下の①～⑦を基本的な考え方として、各学校段階や各教科等にわたる学習指導要領の改善の方向性が示された。

- ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- ② 「生きる力」という理念の共有
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ④ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

具体的には、①については、教育基本法が約60年振りに改正され、21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指すという観点から、これからの教育の新しい理念が定められたことや、学校教育法において教育基本法改正を受けて、新たに義務教育の目標が規定されるとともに、各学校段階の目的・目標規定が改正されたことを十分に踏まえた学習指導要領改訂であることを求めた。③については、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能は、例えば、小学校低・中学年では体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切との提言がなされた。この基盤の上に、④の思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、観察・実験、レポートの作成、論述など、知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると指摘した。また、⑦の豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実については、徳育や体育の充実のほか、国語をはじめとする言語に関する能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる必要があるとの提言がなされた。

また、高等学校の教育課程の枠組みについては、高校生の興味・関心や進路等の多様性を踏まえ、必要最低限の知識・技能と教養を確保するという「共通性」と、学校の裁量や生徒の選択の幅の拡大という「多様性」とのバランスに配慮して改善を図る必要があることが示された。

## (2) 教育内容の主な改善事項

平成21年告示の高等学校学習指導要領における教育内容の主な改善事項は次のとおりである。

- 言語活動の充実
  - ・国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実した。
- 理数教育の充実
  - ・遺伝分野などで、近年の新しい科学的知見等を踏まえ内容を充実し、統計に関する内容を数学Ⅰに導入した。
  - ・科目「科学と人間生活」の新設など指導内容と日常生活や社会との関連を重視した改善を図った。
  - ・数学Ⅰ及び数学Ⅱに〔課題学習〕を導入したり、科目「数学活用」や「理科課題研究」を新設したりするなど、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視した。
- 伝統や文化に関する教育の充実
  - ・歴史教育（世界史における日本史の扱い、文化の学習を充実）、宗教に関する学習を充実した。
  - ・古典（国語）、武道（保健体育）、伝統音楽（芸術「音楽」）、美術文化（芸術「美術」）、衣食住の歴史や文化（家庭）に関する学習を充実した。
- 道徳教育の充実
  - ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成することを新たに規定した。
  - ・公民「現代社会」や特別活動において人間としての在り方生き方に関する学習を充実した。
- 体験活動の充実
  - ・ボランティア活動などの社会奉仕、就業体験を充実するとともに、職業教育において、産業界等における長期間の実習を取り入れることを明記した。
- 外国語教育の充実
  - ・指導する標準的な単語数を1300語から1800語に増加するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場とするという観点から、授業は英語で指導することを基本とするなどの改善を図った。
- 職業に関する教科・科目の改善
  - ・職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環境等への配慮、地域産業を担う人材の育成等、各種産業で求められる知識・技術等を身に付けさせる観点から科目構成や内容を改善した。

## (3) 学習評価の基本的な考え方

現在、高等学校においては、学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定とを、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施している。小・中学校において観点別学習状況の評価が定着していることから、高等学校段階においても、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の一層の改善が求められている。

このようなことから、高等学校においても、学校教育法や平成21年告示の高等学校学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の実施を推

進し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。なお、高等学校における教科・科目の評価の観点は、小・中学校との連続性に配慮しつつ、平成21年告示の高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の実態に合わせて設定することが適当である。

また、学習評価は、生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものである。したがって、学校が地域や生徒の実態を踏まえて設定した観点別学習状況の評価規準や評価方法等を明示するとともに、それらに基づき学校において適切な評価を行うことなどにより、高等学校教育の質の保証を図るものである。

平成21年告示の高等学校学習指導要領における評価の観点は、以下の囲みのように整理される。「知識・理解」及び「技能」については、教科の特性に応じ、知識と技能に関する観点が分けて示されていることもある。また、「思考・判断・表現」については、各教科の目標や内容を踏まえ、当該教科において育成すべき能力にふさわしい名称とし、位置付けられている。

● 「関心・意欲・態度」

各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。評価に当たっては、各教科が対象としている学習内容に対する児童生徒の取組状況を通じて評価することが基本であり、例えば、授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意する必要がある。

● 「思考・判断・表現」

各教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。従来の「思考・判断」に「表現」が加えられた。これは、この観点に係る学習評価を言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と一体的に行うことを明確に示したためである。

このため、この観点を評価するに当たっては、単に文章、表や図に整理して記録するという表面的な現象を評価するものではなく、例えば、自ら取り組む課題を多面的に考察しているか、観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだしているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するものであることに留意する必要がある。

● 「技能」

各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。基本的には、従来の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価する。

今回、各教科の内容に即して思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」が設定されたことから、当該観点における「表現」との混同を避けるため、評価の観点の名称が「技能・表現」から「技能」に改められた。

● 「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が理解しているかどうかを評価するもの。従来の「知識・理解」の趣旨を踏まえた評価を引き続き行う。

また、評価の在り方については、「高等学校学習指導要領解説 総則編」で、次のように述べられている。

〈第3章 5 (12) 指導の評価と改善(第1章第5款の5の(12))〉

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、学習意欲を高めるための指導を行うためには、評価の在り方が大切である。いわゆる評価のための評価に終わることなく、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自

らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが特に大切である。

評価に当たっては、生徒の実態に応じた多様な学習を促すことを通して、主体的な学習の仕方が身に付くように配慮するとともに、生徒の学習意欲を喚起するようにすることが大切である。その際には、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視する必要がある。特に、他者との比較ではなく生徒一人一人の持つよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが重要である。また、生徒が自らの学習過程を振り返り、新たな自分の目標や課題をもって学習を進めていけるような評価を行うことが大切である。

学習評価においては、生徒のよい点や進捗の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、教師が自らの指導の改善を行い、生徒の学習意欲の向上に生かすようにすることが大切である。そのためにも、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点の趣旨を踏まえ、適切に評価を進めていくことが求められる。

- 
- ・本冊子においては、以降、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。
  - ・本冊子に掲載した単元等に付してある評価規準は、新学習指導要領における教科・科目を想定して、参考として掲載したものである。

## 2 新学習指導要領を踏まえた指導の工夫

新学習指導要領において、共通教科「家庭」の目標は次のとおりである。

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

(「高等学校 学習指導要領」平成 21 年 3 月告示から抜粋)

高等学校家庭科では、自己及び家族の発達と生活の営みに必要な知識と技術を、小学校家庭科、中学校技術・家庭科の上に積み重ねて習得させ、生活をよりよくするために主体的に実践できる能力と態度を育成することを目指している。

小学校では家族の一員としての視点、中学校では自己の生活の自立を図る視点が重視されるが、高等学校では、社会との関わりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要となる。

持続可能な社会の構築を目指し、グローバルな視点に立って生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもつとともに、実践的・体験的な学習を通して衣食住、家族、保育、消費、環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解すること、及び、それらに関わる知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決に生かし、男女が協力して、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力の育成を図ることをねらいとしている。

本調査研究では、「家庭総合」における食生活、衣生活、保育の各分野を取り上げ、生徒が学んだことを生活に生かす態度の育成を目指した。そのために、各分野において学習教材を工夫した。また、様々な事象を言葉や概念などを用いて考察させる活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動、適切な解決方法を探求させる活動を意図的に取り入れ、言語活動を充実させた指導を試みた。

### 3 学んだことを生活に生かす態度を育む指導の実践例

#### 事例1 食生活に関わる情報を適切に判断し、主体的に食生活を営む態度を育む指導の工夫

食生活分野において、生徒の生活環境の中にある身近なものを題材として取り上げ、様々な情報の中から正解が一つとは限らない内容について考えさせるといった意思決定に関わる活動を行った。その中で、調べた内容を発表したり文章でまとめたりする活動を行い、食生活に関わる情報を適切に判断し、食の衛生と安全及び環境に配慮した食生活を主体的に営む態度の育成を目指した。

#### 事例2 制服を通して被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育む指導の工夫

衣生活分野において、制服を題材として被服の機能、着装、被服管理について被服材料や被服構成と関わらせながら理解させた。その中で、自分の意見をまとめて発言する活動やグループワークの中で他者の考えを聞き意見を集約して発表する活動を行った。そして、理解したことを自分の生活の中に「取り入れてみる」「やってみる」というような衣生活を主体的に営む態度の育成を目指した。

#### 事例3 子どもを生き育てることについて主体的に考え、子どもと関わろうとする態度を育む指導の工夫

保育分野において、子どものイメージを想起させるような学習教材を取り入れて、その活用法を工夫した。また、ケーススタディやペアワーク、グループワークなどの活動を取り入れ、子どもや子育てについて主体的に考えるような授業を展開した。その中で、子どもを生き育てる上で起こり得る身近な問題について話し合い、理由や意見をまとめたり、問題の解決方法を探求したりすることによって、学習内容の理解を深め、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと関わろうとする態度の育成を目指した。

## 事例 1 食生活に関わる情報を適切に判断し、主体的に食生活を営む態度を育む指導の工夫

### 1 ねらい

食生活に関する学習は、生涯を見通したライフステージごとの食生活を科学的に理解させ、先人の知恵や文化に関心をもたせるとともに、持続可能な社会を目指して資源や環境に配慮し、適切な意思決定に基づいた消費生活を主体的に営むことができるようにすることを目的としている。

本事例では、「家庭総合」における食生活分野の中の「食の衛生と安全及び環境への配慮」に関する授業を取り上げた。ここでは、食生活を取り巻く身近な課題について生徒に意識させ、その解決に向けて、主体的に行動していく態度を育みたいと考えた。

そこで、健康と栄養、食の衛生と安全及び環境への配慮などを意識させながら、食品の選び方などを取り上げ、正解が一つとは限らない内容について考えさせるといった意思決定に関わる活動を取り入れた。また、調べた内容を発表したり、文章でまとめたりする活動も行い、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成にも取り組んだ。このような学習を通して、食生活に関わる情報を適切に判断し、食の衛生と安全及び環境に配慮した食生活を主体的に営む態度を育めるのではないかと考えた。

### 2 授業実践

単元名：食生活をつくる

「安全な食環境を考えよう」「これからの食生活を考えよう」

#### (1) 単元の指導内容 使用教科書（「明日を拓く 高校家庭総合」大修館書店）

- ・ 社会における食の衛生と安全確保の仕組み（食品添加物、品質表示）について理解させる。
- ・ 実習で使用する水について考えさせる。
- ・ 調理実習を踏まえて、環境の維持や持続可能な社会を構築する上で求められる食生活に関心をもたせ、その在り方を考えさせる。
- ・ 資源、エネルギーに配慮した調理ができるようにする。

#### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ 自分や家族の食生活について関心を持ち、実習や実験などに取り組もうとしている。	・ 食品、調理及び食品衛生などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	・ 主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理することができる。 ・ 食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 ・ 資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存などができる。	・ 食品の腐敗、食中毒、食品添加物、社会における食の安全確保などについて理解している。 ・ 資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存などについて理解している。

(3) 単元の指導計画（7時間）

時間	学習内容	評価				評価規準
		関	思	技	知	
1	<b>食品の選択と購入</b> ・生鮮食品と加工食品の選び方を知る。				○	・食品の鑑別の際のポイントと品質表示の正しい見方を理解している。
2	・品質表示を調べる			○		・品質表示から読み取れる情報を収集することができる。
3 ・ 4	<b>食品の保存と管理</b> ・保存方法の種類を理解する。 ・食品の管理・衛生について知る。 <b>食品添加物</b> ・加工食品の品質表示を調べ、その必要性を理解する。 ・どちらのプリンを選びますか？		○		○	・食品の期限表示について考え、意見をまとめている。 ・トレーサビリティについて理解している。 ・食品添加物について、食品に応じた使用目的と種類を確認し、その必要性を理解している。 ・食品（プリン）の選択を通して、情報を適切に判断し目的に合った食品の購入について考え、まとめたり、表現したりしている。
5	<b>水の安全性</b> ・水道水対ミネラルウォーター 〈ディベート〉	○	○			・ディベートにおいて、意欲的に自分の考えをまとめ、発表しようとしている。 ・他の意見を踏まえ、最終的な自己の結論をまとめている。
6 ・ 7	<b>環境に配慮した食品の利用</b> エコ・クッキング ・エコ・クッキングとは？ ・節水・ゴミの問題 〈実習〉	○		○	○	・調理における環境への配慮の方法を確認し、意欲をもって実習に取り組んでいる。 ・資源、エネルギーに配慮した調理ができる。 ・基本的な切り方ができる。 （かつらむき・拍子木切り・短冊切り・みじん切り） ・実習を通して、環境に配慮した食生活の在り方について考え、自分の意見をまとめている。

(4) 事前アンケートの実施

これから授業で扱う内容について、生徒たちの知識、経験及び関心についてアンケート調査を行い、その実態を把握した。対象は第2学年の生徒76名である。

まず、「日常的に自分で購入する食品（複数回答）」については、95%の生徒が調理済みの弁当やパン、清涼飲料水や菓子類などのすぐに食べられるような食品の購入をしており、生鮮食品のような調理のための食材となる食品の購入については26%の生徒しかいなかった【図1】。

次に、「生鮮食品を購入するときに着目する事柄」については、「価格」という回答が79%を占めた。また「見た目の良さ」という回答が47%、「鮮度」という回答が55%と半数程度を占めた。生鮮食品においては、「原産地や原産国」という回答が63%あり、「○○産だったら避ける」や「国

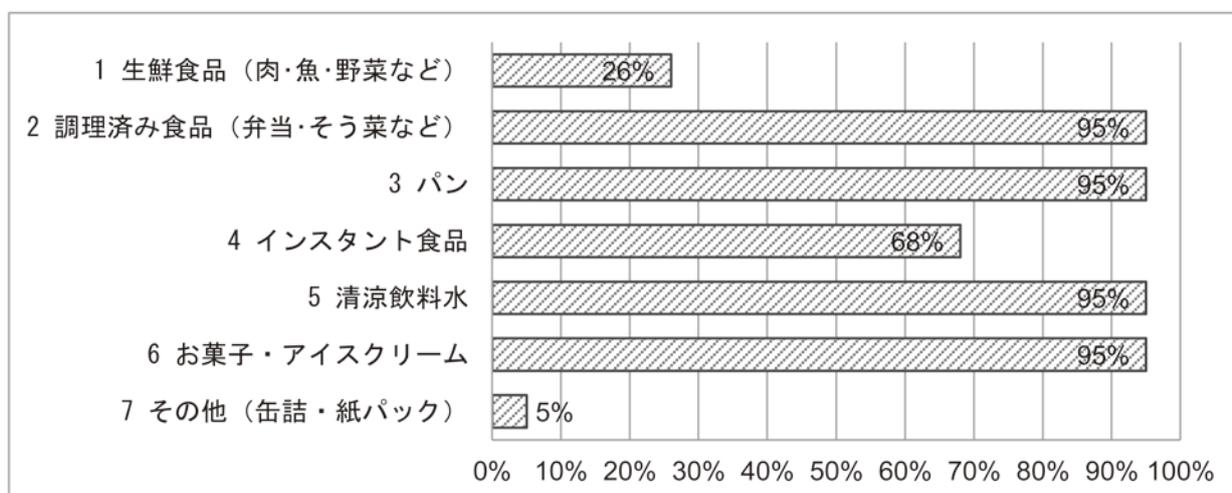
産のものを選ぶ」など、自分なりの基準をもって選択している生徒もいた。「加工食品を購入するときに着目する事柄（複数回答）」については、「価格」という回答が 87%、「見た目の良さ」が 53%を占めた。「賞味期限・消費期限」が 50%、「話題になっている」が 45%であった。反面、生鮮食品、加工食品とも、「エコ・環境」に着目している生徒はほとんどいなかった。また、加工食品に関しては「食品添加物」「栄養面」もほとんどいなかった【図 2-(1)、2-(2)】。

また、「現代の食生活の課題に関連する言葉の認知」については、「地産地消」の認知度は高いが、「旬産旬消」「フードマイレージ」「バーチャルウォーター」などの認知度は低く、現代の食生活の課題に関する言葉と内容を知らない生徒が多かった【図 3】。

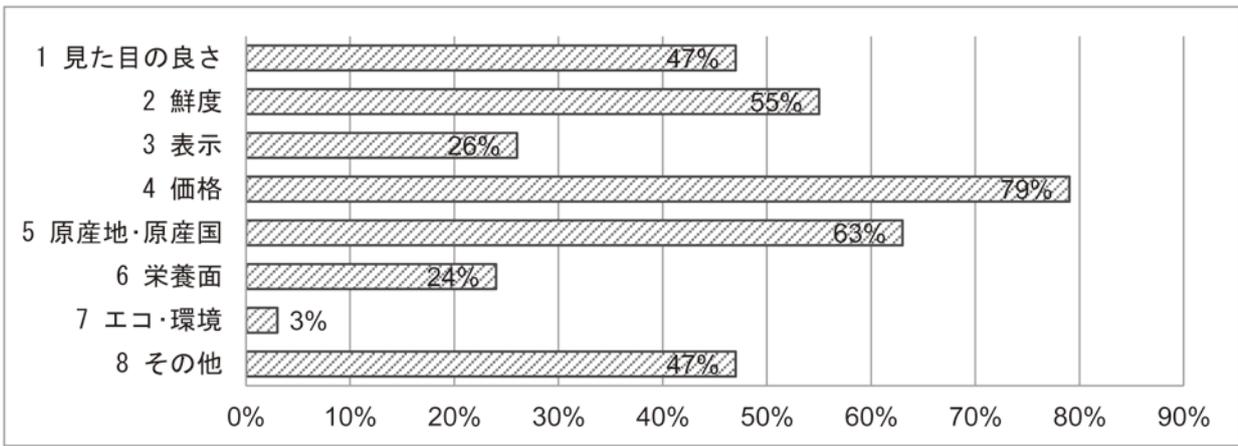
さらに、「安全性を意識した食生活及び環境を意識した食生活」については、「食の安全性」に関しては 84%の生徒が「常にしている」「ときどきしている」と回答した。また、「環境」に関しては、39%の生徒が「あまりしていない」「していない」と回答した【図 4】。

現代食生活の課題に関する内容を確認しながら、食の衛生と安全及び環境への配慮について理解させ、食品の選択や購入における判断基準の幅を広げられるような授業の展開の必要性を感じた。そして、幅広い知識をもち情報を適切に判断し、安全と環境に配慮した食生活を営む態度を育みたいと考えた。

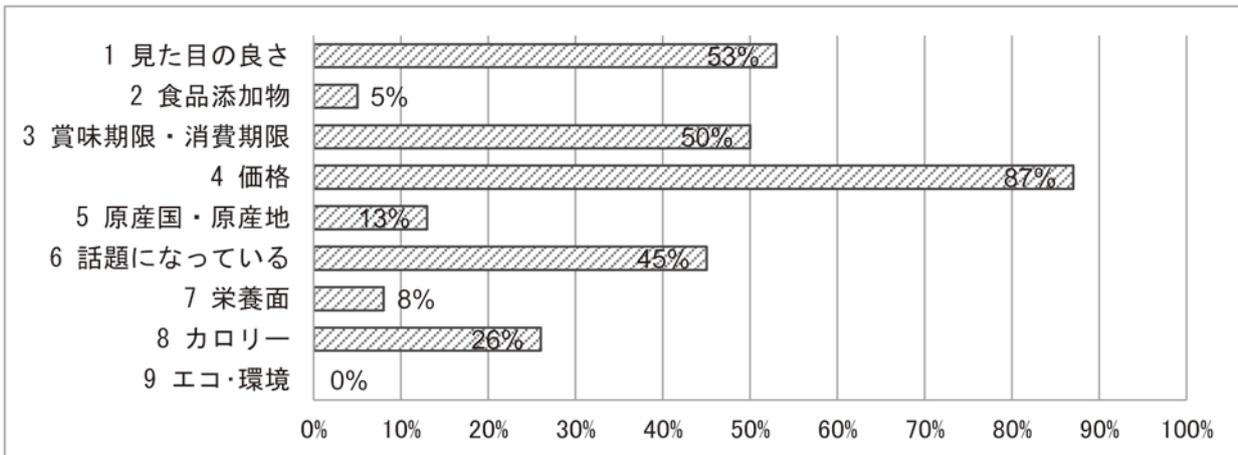
最後に、「1年次の家庭科の授業への取組」については、「どちらかというと主体的に取り組みなかった」という回答が 16%、「主体的に取り組みなかった」という回答が 3%であった【図 5】。また、「家庭科の授業中に意見や感想を書くこと」については、「どちらかというとい欲的に取り組みなかった」という回答が 19%、「意欲的に取り組みなかった」という回答が 3%であった【図 6】。



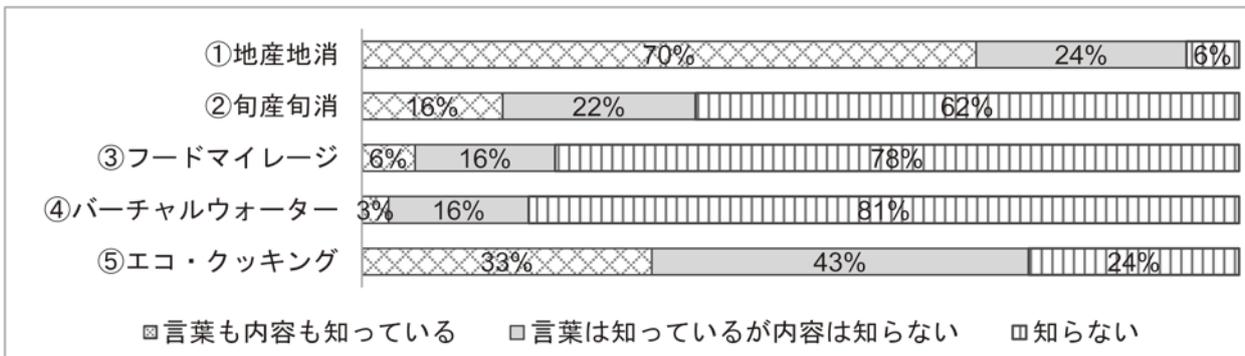
【図 1】 日常的に自分で購入する食品（複数回答）



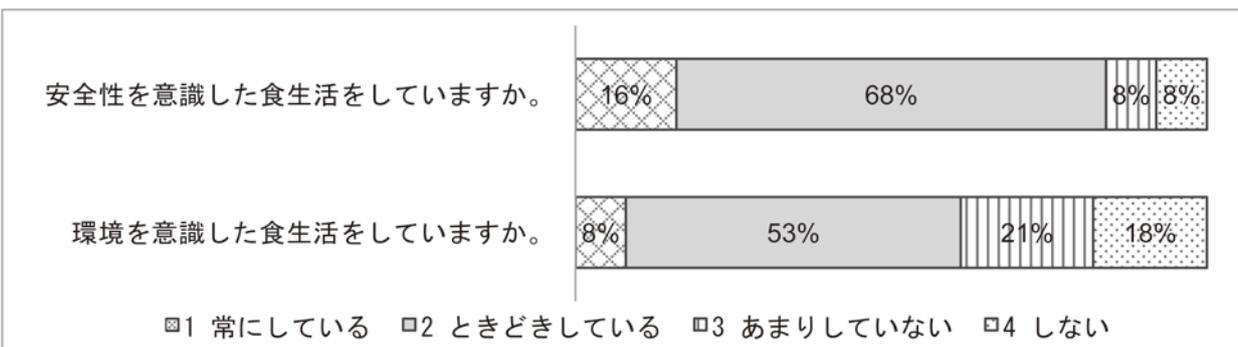
【図 2-(1)】 生鮮食品を購入するときに着目する事柄（複数回答）



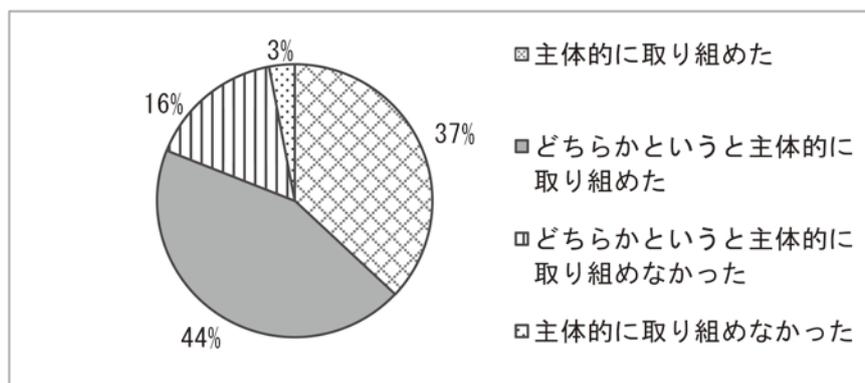
【図 2-(2)】 加工食品を購入するときに着目する事柄（複数回答）



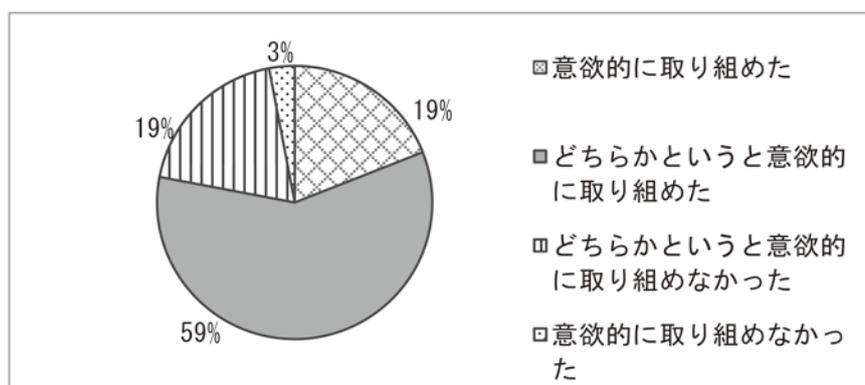
【図 3】 現代の食生活の課題に関連する言葉の認知



【図 4】 安全性を意識した食生活及び環境を意識した食生活



【図5】 1年次の家庭科の授業への取組



【図6】 家庭科の授業中に意見や感想を書くこと

### (5) 授業の概要

第2学年の生徒76名を対象に授業実践を行った。本事例では、特にグループワークに力を入れた2～7時間目を報告する。概要は以下のとおりである。

#### ア 2時間目の授業 【言葉や概念などを用いて考察させる活動】【ワークシートの工夫】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習内容を確認する。	
展開	○加工食品の表示について調査する。  ○品質表示に関する新聞記事を読み、感想を書く。	○各グループに3種類の加工食品を渡し、そのパッケージに記載してある表示から、様々な情報を読み取る活動を行う。表示の必要性について考えさせるような言葉掛けを行う。その上で、食品を購入するときに着目すべき点を確認する。 ○記事の内容を要約させ、感想を書かせる。ワークシートにリード文を入れ、生徒の思考を促す。 <b>【資料1】</b>
まとめ	○次時の学習内容の概要をつかむ。	

アンケートの結果から見えてきた生徒たちの食品購入の際の課題は、「見た目の良さ」「価格の安さ」「CMなどの情報」に安易に惑わされていることである。本時ではまず、加工食品の品質表示について、身近な食品を取り上げ、実際にいくつかの表示を調べてみる活動をグループで行った。

**○加工食品の表示について調査する。**

- ① 菓子パンやインスタント食品などのパッケージから、品質表示に記載されている事項を書き写す。その際、各班3種類ずつの食品を通して、表示には多様な情報が集約されていることを確認させた。
- ② 記載されている内容から、なぜ品質表示が必要なのか考える。

この活動では、生徒が購入しているような身近な食品を教材として、生徒の思考を促すようにした。生徒は、これまでの食品購入を振り返りながら、これから食品を購入するときに着目すべき事項を自分なりの言葉でまとめることができた。



(表示を調べている様子)

**○品質表示に関する新聞記事を読み、感想を書く。**

前述の加工食品の表示調査を踏まえて、品質表示に関する新聞記事を読ませ、自分なりの感想や意見を書かせた【資料1】。

- ① 記事の内容を理解し、必要な情報を読み取り、ワークシートにまとめる。
- ② 新聞記事を読んで、問題と感じたことや自分なりの意見や感想を書く。

生徒の思考を促し、文章を書きやすくするためにワークシートに工夫を施した。まず、記事からの情報を読み取りやすくするために、ヒントになるような問いかけを提示した。次に、感想や意見の欄には、始めに結論を書かせ、理由については接続詞を示し、生徒の思考を促し文章化するためのきっかけとなるようにした。この工夫により、生徒たちに文章を考える様子が見られるようになり、続けて書こうとする意欲が感じとれるようになった。

**【資料1】**

**要点のまとめ**

この記事のテーマ・・・？

何が・・・？

どうなった・・・？

その原因は・・・？

なぜ、複雑になったのか・・・？

3つの法律の役割・・・？

①食品衛生法

②JAS法

③健康増進法

新たに加わる表示・・・？

**\*感想や意見を書きましょう。**

①自分の感想や意見
②なぜなら
③それに
④また

**【生徒の記述の例】**

① <b>自分の感想や意見</b>	新聞の記事を読んだあと、改めてカップラーメンに記載してある品質表示を見ました。原材料名の欄に知らない単語がたくさん書いてあって驚きました。また、食物アレルギーを引き起こしやすい食品についての注意も書いてあることを初めて知りました。
② <b>なぜなら</b>	今まで、これほど真剣に書いてある内容を見たことがなかったからです。
③ <b>それに</b>	使用されている原材料や食物アレルギーについて、あまり興味がありませんでした。
④ <b>また</b> <b>でも</b>	今回の授業を通して、自分の身体の中に入るものだから、よく分からない原材料については、自分なりに調べてみたいと思いました。



4時間目は、まず、食品添加物について教科書を用いて種類と目的を確認させ、その必要性を理解させた。身近にある多くの食品に添加物が含まれていることを確認するとその種類の多さに驚いている姿が見られた。また、「食品添加物は本当に安全なのか？」という疑問を口にする生徒も見られた。

次に、これまでの学習のまとめとして、自分なりの根拠をもって食品を選択させる活動を行った。「あなたならどちらを選ぶ？～食品の品質表示を確かめて～」と題して、2種類のプリン（食品カード）を準備し、品質表示を見比べて自分なりの考えをもたせて選択させた。【プリンA】は一個で126円であり、原材料名の記載が「卵」から始まっているものである。【プリンB】は三個で81円のものであり、一個で27円である。原材料名の記載が「糖類」から始まっているものである。カードから確認できる内容は、名称、原材料名、内容量、賞味期限、栄養成分、保存方法、製造者及び価格である。

食品の選択に関しては、これが正解というものはない。しかし、「見た目の良さ」だけの判断ではなく、与えられた条件の中から自分の価値観にあったものを、既習内容を踏まえて幅広く考えさせた上で選択させた。生徒が選択する上で着目した事柄は、①原材料全体の食品名 ②原材料名の最初に記載されている食品名 ③栄養成分 ④食品添加物の数 ⑤価格 ⑥賞味期限の迫ったものかどうか（環境に配慮して、廃棄させない、ゴミとしない）などであった。

#### 【プリンA】 価格 126円

名称：洋生菓子
原材料名：卵、砂糖、カラメルソース、生乳、脱脂粉乳、 植物油脂、ゼラチン、食塩、香料、増粘多糖類
内容量：90g
賞味期限：12.9.25
保存方法：要冷蔵（10℃以下）
製造者：
栄養成分（90g当り） エネルギー121kcal/ たんぱく質4.2g/脂質4.8g/炭水化物15.0g/ ナトリウム58.5mg

#### 【プリンB】 価格 27円

名称：生菓子
原材料名：糖類（砂糖・異性化液糖、ぶどう糖、水飴）、 乳製品、植物油脂、でん粉、ゼラチン、寒天、 ゲル化剤（増粘多糖類）、乳化剤、香料、着色料（カロチン、カラメル）
内容量：210g（70g×3個）
賞味期限：12.9.21
保存方法：要冷蔵10℃以下
製造者：
栄養成分（70g当り） エネルギー81kcal/ たんぱく質0.6g/脂質2.9g/炭水化物[糖質12.8g/ 食物繊維0.4g]/ナトリウム54mg

#### 【プリンA】を選択した生徒の意見

- ・原材料が分かりやすいものだった。
- ・原材料名が卵から始まっている。
- ・エネルギー量が高く、たんぱく質量も多いので、栄養補給になる。
- ・使用されている食品添加物の数が少ない。
- ・値段は高いが高級感があり、おいしそう。
- ・知っている材料で作られているので、安全そう。

#### 【プリンB】を選択した生徒の意見

- ・値段が安い。
- ・エネルギー量が低く、たんぱく質、脂質、炭水化物の量が少ないので太りにくそう。
- ・こちらの方が賞味期限が迫っている。
- ・3個入っているからお得感がある。
- ・3回に分けて食べられる。
- ・家族で食べられる。
- ・たくさん食べられ、満足感がある。

ウ 5時間目の授業 【多くの情報の中から必要なことを選択し理由や根拠を論述させる活動】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	○活動の流れを知らせる。 【資料2】
展開	○水道水対ミネラルウォーターについて討論する。 (10人対10人のディベート)  ○生きていくのに欠かせない水の安全性について考える。	○あらかじめ水の性質や成分、製造・管理の方法などについて調べさせておく。 ○各クラスの状態に応じて、発言が停滞しないように助言する。 ○他の意見を聞くことにより、多角的な考え方があることを知り、視野を広げることをねらいとする(勝敗ではない)。 【資料3】 ○まとめの時間を十分にとり、意見や感想を丁寧に書かせる。
まとめ	○判定シートをまとめる。 ○次時の学習内容の概要をつかむ。	○判定シートをまとめさせる。 【資料4】 ○本時の意見・感想を書き、提出させる。

調理実習を始めるにあたり、「学校の水道水はまずい。調理に利用できるのか？」という質問を何人もの生徒から受けた。そこで、生徒たち自身に「水道水とミネラルウォーター」について調査させ、情報をまとめて発表させることにした。手法としてディベートを用いた。

**指導手順**

- ① 40名の生徒を出席番号順に前半20名(被服室)、後半20名(教室)に分け、それぞれをさらに、水道水派とミネラルウォーター派10名ずつに分け、ディベートの説明をした【資料2】。
- ② 各グループに分かれて、準備してあった資料から自分のグループにとって有利な部分を抜き出し、良さを主張し、相手を納得させるためのスピーチをまとめさせた(15分)【資料3】。
- ③ まずそれぞれの代表者が意見を出し合い、相手グループの主張の曖昧な点を指摘し、自分のグループの主張を納得させるため、お互いに質疑応答を行った(15分)【資料4】。その際、それぞれのグループから出された意見は、板書していった。

**【資料2】**

[水道水派の意見]

- ・法律で定められた基準があり、安心して飲める。
- ・1リットル当たり0.14円だから安い。
- ・蛇口をひねればいつでも飲める。手軽に飲める。
- ・ゴミが出ない。

[ミネラルウォーター派の意見]

- ・おいしい。(塩素臭くない。)
- ・いろいろな種類の水があり、味がある。
- ・非常時(災害)に使用でき便利である。
- ・買い置きができる。

[水道水派への反論]

- ・塩素の臭いがする。
- ・水道管の錆が混ざる可能性がある。

**【ディベートによって期待される効果】**

- ①発表と説得・質疑応答・反論等の論理的コミュニケーション技術の向上
- ②自己およびチームメンバーの経験・知識・意見を論理的に整理し、体系化する能力の向上
- ③問題を一面的・固定的ではなく、多面的で柔軟な観点から理解し協議する能力の向上。
- ④非言語的コミュニケーション技術の向上
- ⑤思考力・判断力・表現力の向上

**【準備と進め方】**

1. 最初の10分で、各チームごとに作戦を立てる。(プリント)
2. 判定シートを配布。授業前の意見を記入させる。
3. 次のように進める。
  - ①「主張と説得スピーチ」  
水道水派(3分)  
ミネラルウォーター派(3分)  
作戦タイム(3分)
  - ②「質疑応答」  
水道水派からミネラル派へ ミネラルが答える(5分)  
ミネラル派から水道水派へ 水道水派が答える(5分)  
作戦タイム(3分)
  - ③「反論・弁明と結論」  
水道水派代表(3分)  
ミネラル派代表(3分)
4. 判定する。
5. 感想・自分の意見を書く。

**【指導上の留意点】**

- ①各学級の状況に応じて適宜修正して指導・実施する。
- ②勝敗や「誰が正しいか」ではなく、多面的でより妥当な「理解・認識の獲得」を重視する。
- ③授業後の聴衆からのコメント・感想発表に極力時間を割く。

- ・水道管のトラブルにより危険な物質を含んだ水が出る可能性がある。
- ・災害時に止まることもある。

[ミネラルウォーター派への反論]

- ・水道水より値段が高く、経済的ではない。
- ・費用がかかる。
- ・ミネラルウォーターの安全性に疑問を感じる。
- ・ペットボトルやビンはリサイクルできるけれど、再利用するのにコストがかかる。

[水道水派への反論の反論]

- ・塩素の臭いは、「一度沸騰させる」「汲み置きする」ことで、飛ばすことができる。
- ・水道管の定期的な点検を行い、水質を確認する。

[ミネラルウォーター派への反論の反論]

- ・費用はかかるが、硬質や軟質という好みの性質や味の違いを楽しむことができる。

普段発言の少ない生徒も手を挙げて意見を述べるなど、活発な意見交換が行われた。

ディベートの前は「学校の水道水はまずい。調理に利用できるのか?」と言っていた生徒も、理由や根拠を述べたこの活動を通して、科学的に物事を捉える力を養うことができた。そのため、水道水の安全性について考えを新たにしたり、学校の水について疑問視する声は聞こえなくなった。



(協議をしてスピーチをまとめている様子)



(ディベートの様子)

【資料3】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

私は \_\_\_\_\_ 派

① 主張・説得のためのスピーチをまとめる。  
(なぜそう思うのかをできるだけ具体的に話し、聞いている人を説得する。)

② 質疑応答を考える。  
(自分の主張が有利になるように、相手側の主張の欠点や弱点を指摘したり、あいまいな点について質問をする。質問をされたグループは、自分の主張を曲げないようにそれに答える。)

③ 反論、弁論と結論  
(相手側の主張や、相手側から指摘された弱点についての反論をし、聴衆が心を動かすよう最後のまとめのスピーチをする。)

【資料4】

判定シート \_\_\_\_\_ 年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

《水道水派 VS ミネラルウォーター派 どちらが better?》

私は \_\_\_\_\_ 派です。

【授業前の意見】

水道水に賛成	かなり	どちらかと いえば	VS	どちらかと いえば	かなり	ミネラル ウォーター に賛成
--------	-----	--------------	----	--------------	-----	----------------------

【授業後の意見】

水道水に賛成	かなり	どちらかと いえば	VS	どちらかと いえば	かなり	ミネラル ウォーター に賛成
--------	-----	--------------	----	--------------	-----	----------------------

意見・感想

① チームの良かった点・不十分だった点

	水道水	ミネラルウォーター
良かった点		
不十分な点		

② テーマになった問題について自分の意見を述べなさい。



エ 6・7時間目の授業 【適切な解決方法を探求させる活動】【ワークシートの工夫】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の内容を把握する。	
展開	○エコ・クッキングとは何か理解する。 ○「大根を1本無駄なく使い切る！」 ・材料の切り方 ・だしの取り方 ・エコ・クッキング 大根の味噌汁 大根の皮のきんぴら 切り干し大根 ふろふき大根 大根の葉のふりかけ ○節水のポイントを考える。	○実習中に「節水」と「ゴミを出さないこと」を心掛けるよう促す。 ○実習「大根を1本無駄なく使い切る！」の目的と内容を説明し、どんな料理ができるか考え、計画を立てさせる。 ○基本的な材料の切り方や混合だしの取り方を実習させる。 ○生徒の調理技術を考慮してグループごとの役割分担を行う。 ○感想をまとめさせる。 【資料5】 ○実習の結果から、調理中に具体的にできることを考えさせる。
まとめ	次時の学習内容の概要をつかむ。	

(7) グループごとの作業内容

- 1班・・・大根の皮 かつらむきした皮 ⇒ 細くせん切り ⇒ きんぴら  
 2班・・・中心部 拍子木切り ⇒ ざるにならべて天日干し ⇒ 切り干し大根  
 短冊切り ⇒ 1、2班分のみそ汁を調理  
 3班・・・大根の皮 かつらむきした皮 ⇒ 細くせん切り ⇒ きんぴら  
 4班・・・中心部 拍子木切り ⇒ ざるにならべて天日干し ⇒ 切り干し大根  
 短冊切り ⇒ 3、4班分のみそ汁を調理  
 5班・・・大根葉 ゆでる ⇒ みじん切り ⇒ 炒煮 ⇒ ふりかけ  
 6班・・・中心部 輪切り ⇒ 煮る ⇒ 味噌だれ ⇒ ふろふき大根  
 短冊切り ⇒ 5、6班分のみそ汁を調理  
 7班・・・大根葉 ゆでる ⇒ みじん切り ⇒ 炒煮 ⇒ ふりかけ  
 8班・・・中心部 輪切り ⇒ 煮る ⇒ 味噌だれ ⇒ ふろふき大根  
 短冊切り ⇒ 7、8班分のみそ汁を調理



(使用した材料)



(大根をざるにならべている様子)

(イ) 節水に関する意識付け

みそ汁を調理する偶数班には、水の使用量（節水）を意識させるために、水道から直接水を使わずに、ペットボトルに汲み置きした水を使って調理をさせた。

水を使用する作業は次の五つである。

- ① 使用する部分のみを洗う。
- ② 使用する器具（なべ、ふた、おたま、包丁、まな板）を洗う。

- ③ みそ汁（4人分）の水の量は 600 mL。
- ④ 椀と箸を洗う。
- ⑤ 食後の片付け

**調理を終えての水の使用量**

- 2班 約 18L （2リットルのペットボトル 9本分）
- 4班 約 17L （2リットルのペットボトル 8.5本分）
- 6班 約 20L （2リットルのペットボトル 10本分）
- 8班 約 20L （2リットルのペットボトル 10本分）



（準備したペットボトルの水）

調理実習開始前に、各グループに「今回の調理には、ペットボトル何本分の水が必要か？」を予想させた。2リットルのペットボトル3～4本（6～8リットル）という回答が最も多かった。ペットボトル入りの水を用いての調理を経験することによって、節水を意識しても予想以上に水を使用していることに気付き、生徒たちは大変驚いていた。そこで、この経験を踏まえて節水のポイントを考えさせた。

**【節水のポイントに関する生徒の意見】**

- ・洗い桶にためた水で洗う。
- ・洗剤の使用量を少なくする。
- ・油污れやこびりついた汚れは水につけ置きしてから洗う。または、ふき取ってから洗う。
- ・蛇口から出る水の量を最小限にする（無駄にたくさん出さない）。
- ・水の出しっぱなしはしない。こまめに蛇口を閉める。

**【生徒の感想】**

- ・みそ汁4人分を作るだけなのに、たくさんの水が使われていることが分かった。
- ・洗う作業を工夫すると節水できることが分かった。
- ・蛇口から出る水を使っていたときは、特に水の使用量を考えたことはなかった。ペットボトル入りの水を使ってみて、水には限りがあることを実感した。水の大切さが分かった。
- ・洗剤が少なくても汚れは十分落ちていて、水の使用量も少なくて済むことが分かった。
- ・ペットボトル入りの水を使っていると、無意識に水を大切にしようとしていた。

**(ウ) ゴミの減量について**

今回の実習の最後に生徒たちにゴミ箱の中を確認させた。大根の葉や皮など普段は生ごみとしてしまう部分まで使い切ったため、ほとんどゴミが出なかったことを全員で確認した。

**(イ) この授業を通しての生徒の感想【資料5】**

- ・普段捨ててしまう部分も工夫して使えばおいしく食べることができることに驚いた。なぜなら、大根1本からたくさんの料理ができて味もよかったから。それに、ゴミも全く出なかったから。
- ・普段使わないで捨ててしまう部分を使えてよかった。なぜなら、おいしく食べられたから。それに、ゴミを減らすこともできた。また家でも作ってみようと思った。

**【資料5】**

＜感想＞

①自分の感想や意見

②なぜなら

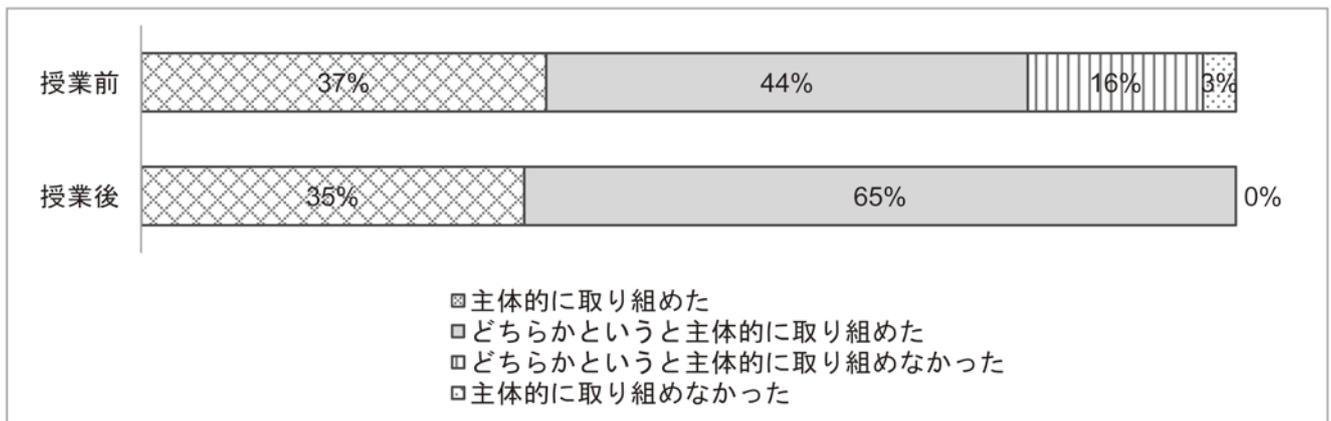
③それに

④また

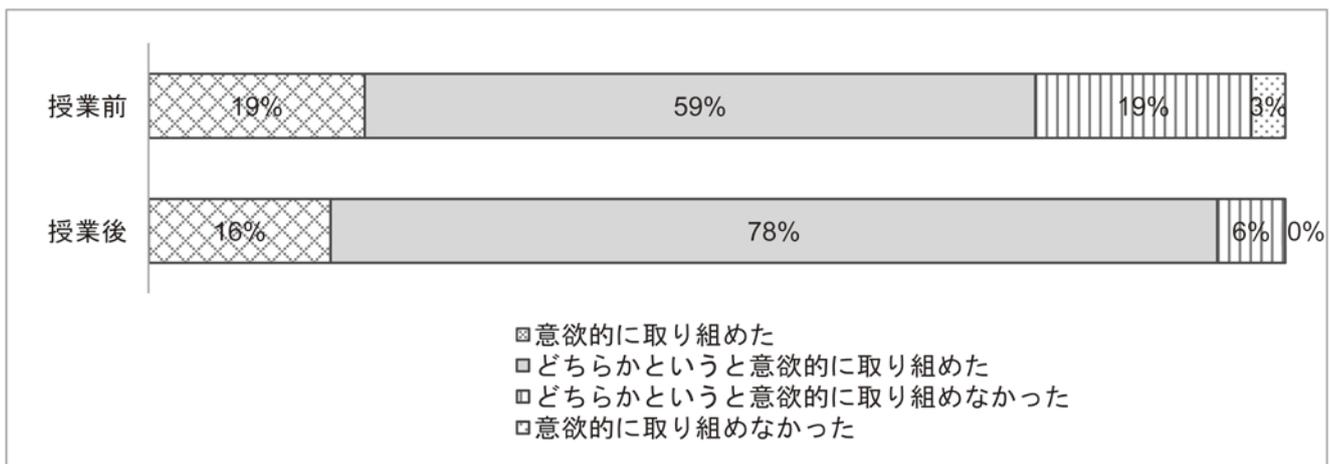
- ・エコ・クッキングはとても楽しかった。なぜなら、班で協力してできたから。それに、大根は捨てる場所がないことを知ることができた。また、工夫するともっとメニューが増えるのではないかと思った。

#### (6) 事後アンケートの実施

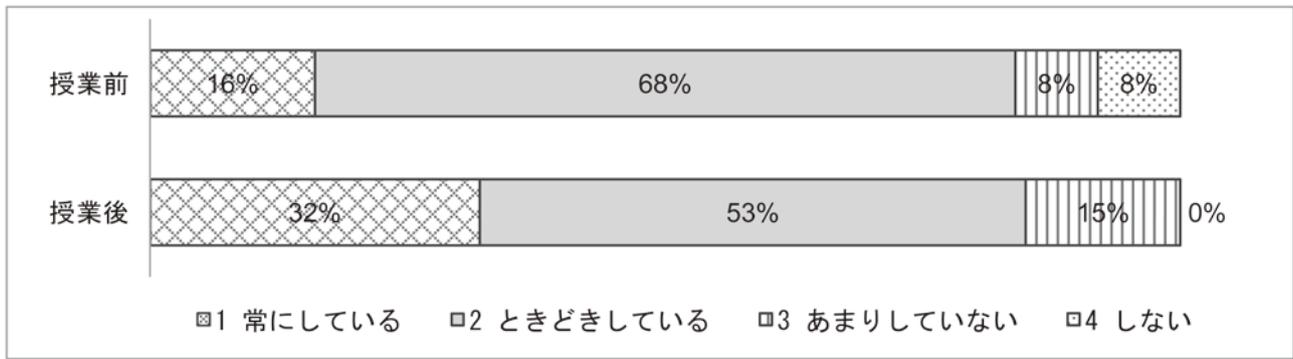
7時間の授業が終了した段階で、アンケートを実施した。様々な活動を取り入れた「授業への取組」【図5、6】と「安全性を意識した食生活」「環境を意識した食生活」【図7、8、9】に関する意識変化を確認した。結果を見ると、授業後は100%の生徒が「授業に対して主体的に取り組めた」「どちらかというに取り組めた」と回答し、94%の生徒が「意見や感想を書くことに意欲的に取り組めた」「どちらかというに取り組めた」と回答した。また、「安全性を意識した食生活」については85%の生徒が「常にしている」「ときどきしている」と回答し、「環境を意識した食生活」については81%の生徒が「常にしている」「ときどきしている」と回答した。生徒の学習意欲の向上と生活に生かしている様子を確認することができた。結果は以下のとおりである。



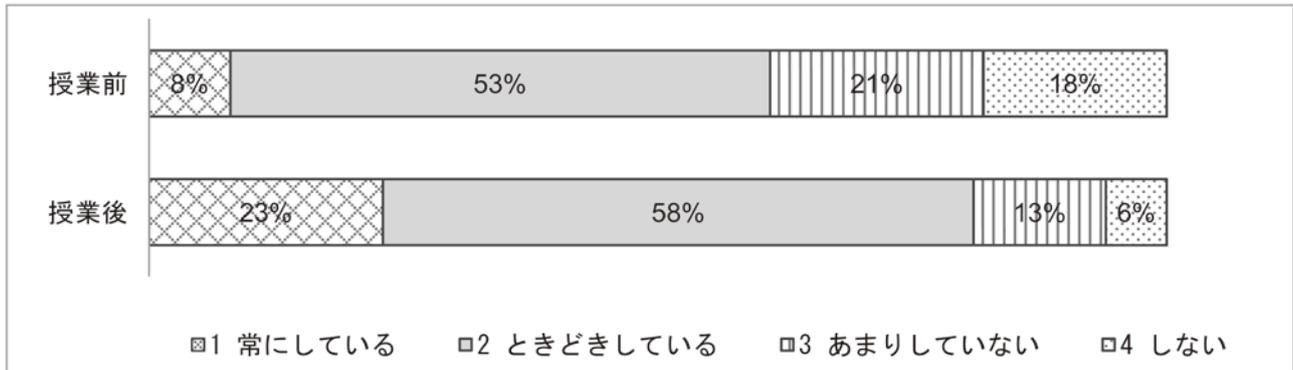
【図5】授業への取組



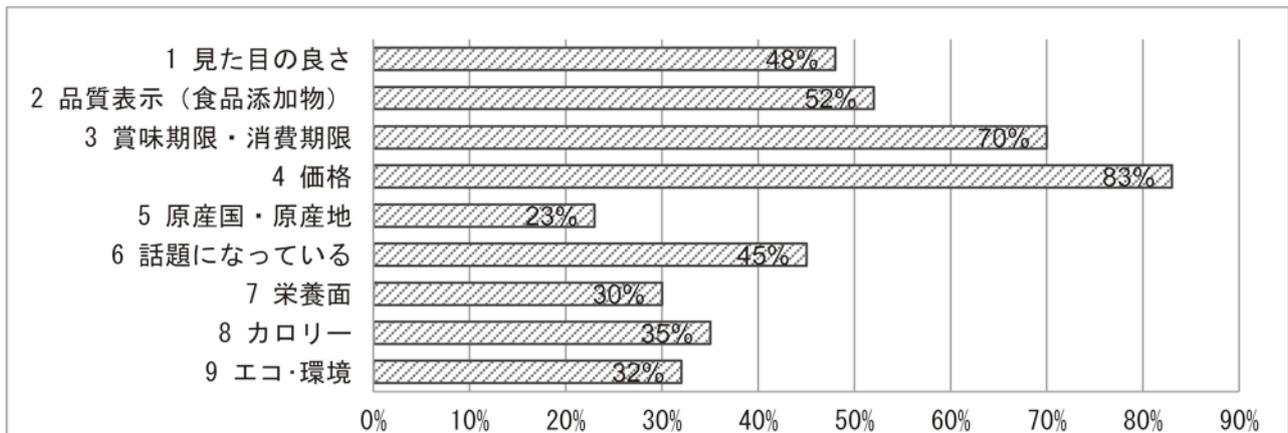
【図6】授業中に意見や感想を書くことについて



【図7】安全性を意識した食生活



【図8】環境を意識した食生活



【図9】加工食品を購入するときに着目する事柄（複数回答）

【授業に関する生徒たちの感想】

- ・食品添加物の授業では、実物や写真を使ったので分かりやすく楽しく感じた。なぜなら、自分で調べることを通して、知ることの楽しさを学ぶことができたから。
- ・興味深い授業が多かった。なぜなら、環境を意識した調理実習やディベートといった授業を受けられたから。
- ・家庭科は将来に渡って役に立つと思うので、その役立つ知識を楽しく取り入れた授業を受けられたのはよかった。学んだ知識を使っていけるようになりたい。
- ・グループでの活動は、クラスの人と話をするきっかけになったし授業にも積極的に取り組めた。自分の意見を述べることは大変だけれど、これから役に立つことだと思った。
- ・これからの生活にとって大切なことを学べたと思う。地球環境に関わることだから、学んだことに取り組んでいきたいと思った。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、健康と栄養、食の衛生と安全及び環境への配慮などを意識させながら、生徒の生活環境の中にある身近なものを題材として取り上げ、正解が一つとは限らない内容について考えさせるといった意思決定に関わる活動を取り入れた。また、調べた内容を発表したり、文章でまとめたりする活動も行い、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成にも取り組んだ。このような学習を通して、食生活に関わる情報を適切に判断し、食の衛生と安全及び環境に配慮した食生活を主体的に営む態度を育むことを目指した。

グループでの話し合いやディベート形式を取り入れ、授業後は必ずワークシートへ自分の意見や感想をまとめて記述する活動を繰り返し、また生徒が論述しやすいようにワークシートにも工夫をした。授業後のアンケートから、多くの生徒が主体的に授業に取り組めたこと、授業を通しての意見や感想を意欲的に記述することができたことが確認できた。また、多くの情報の中から自分に必要なことを選択し理由や根拠を論述する活動においては、「知ることの楽しさを学べた」「学んだことをこれからの生活に役立てたい」といった記述(P. 20の【授業に関する生徒たちの感想】下線)も確認できた。これらは、【言葉や概念などを用いて考察させる活動】【判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動】【多くの情報の中から必要なことを選択し理由や根拠を論述させる活動】【適切な解決方法を探求させる活動】を意図的に取り入れた成果であると考えられる。

これらのことから、食生活に関わる情報を適切に判断し、食生活を主体的に営む態度を育むことができたと考えられる。さらに、グループという少人数での協議は、伝える・聞くという双方向の行為から、自分の考えを深めていくことにつながるようであった。生徒の思考を深めていくような学習活動を行うことは、生徒が自分の考えをもち、生活を主体的に営む態度を育む上で不可欠であると考えられる。

#### (2) 課題

- ① 生徒に興味・関心をもたせる教材の工夫が更に必要であること。
- ② 生徒が主体的に取り組むことのできる授業展開を更に検討する必要があること。
- ③ 常に今この時に合った授業内容にしていくことが大切であること。

以上3点が今後の課題である。生徒に、学んだことを生活の中で生かしていく実践的な態度を身に付けさせるためには、教師主導の一斉授業ばかりではなく、生徒が授業の主役となって自分の考えをもち、発言し合い、考えを深めていけるような活動を意図的に仕組んだ授業を創造していく必要がある。今後更に研究を深めていきたい。

## 事例2 制服を通して被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育む指導の工夫

### 1 ねらい

これまでの指導において、衣生活分野の学習を終えても、衣生活に対する意識が大きく変わったという様子は見られない生徒が多かった。例えば、日々の制服の着装面では自分さえよければいいといった意識のままであり、管理面では人任せ（親任せ）の意識のままであった。この原因は、これまでの指導が衣生活に関する知識を与えるだけになってしまい、実際の生活の中に生かしていこうという意識をもたせるところまで至らなかったのではないかと考えた。

そこで本事例では、「家庭総合」における衣生活分野の調査研究を行った。制服という生徒にとって最も身近な題材を用いて、生徒自身に主体的に衣生活を営むことについて考えさせた。そのために、制服と関連付けながら、被服の機能、着装、被服管理について被服材料や被服構成と関わらせながら理解させた。そして、自分の意見をまとめて発言する活動やグループワークの中で他者の考えを聞き意見を集約して発表する活動を行い、被服に関する理解を深め、自ら納得した上で衣生活を営む態度を育むことを目指した。

### 2 授業実践

単元名：衣生活をつくる

(1) 単元の指導内容 使用教科書（「家庭総合 生活に豊かさをもとめて 改訂版」第一学習社）

- ・世界と日本の制服を比較することで、衣生活の文化に関心をもたせる。
- ・制服を題材にグループ活動を通して、衣生活の課題や着装について考えさせる。
- ・制服を題材に、着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて理解させる。
- ・適切な被服管理ができるようにする。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などの衣生活の科学と文化に関心をもって、学習に取り組もうとしている。	・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて課題を見だし、自分の考えを分かりやすくまとめたり、発表したりしている。	・主体的に衣生活を営むために必要な情報を収集・整理することができる。 ・被服の入手、洗濯、保管などの衣生活の管理ができる。	・着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて、科学的に理解している。 ・安全と環境に配慮した衣生活について理解している。

(3) 単元の指導計画（9時間）

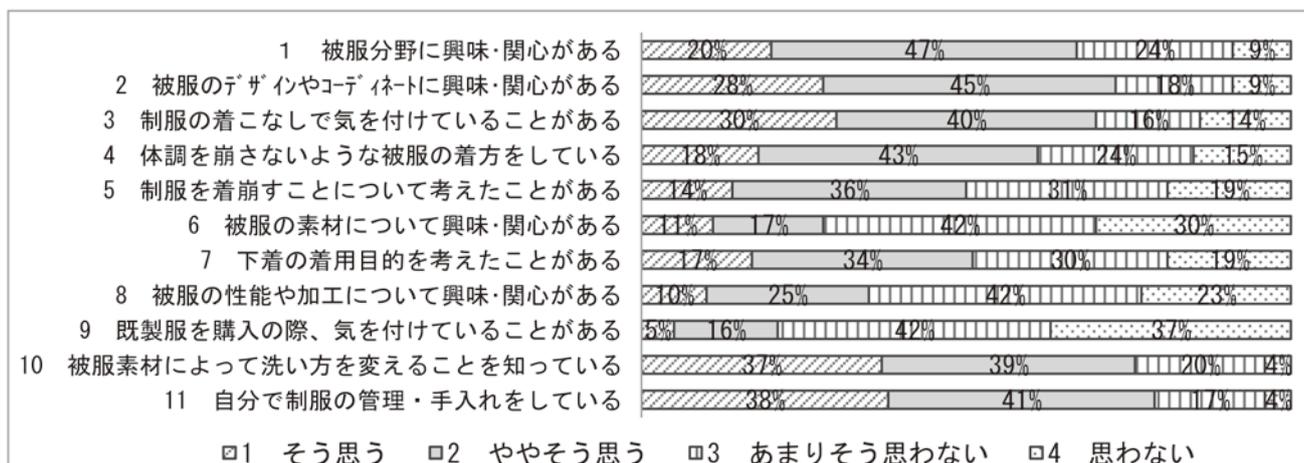
時間	学習内容	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	制服を調べる			○		・制服の取り扱い絵表示から情報を収集・整理することができる。	ワークシート 行動観察

2	人と衣生活		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界と日本の制服と比較することにより、日本の制服の特徴について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> <li>年中行事や冠婚葬祭などの場での青年期の着装的な在り方について具体的に考えている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
3 ・ 4	衣生活の課題をめぐって		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の流行の仕組みを理解している。</li> <li>制服は流行に左右されるのかを考え、発表している。</li> <li>衣生活の健康と安全について考え、まとめている。</li> <li>資源・環境と衣生活との関わりを踏まえて、被服計画の必要性を理解している。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発表
5	生活のなかの被服の役割		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の社会的機能を踏まえて、制服の着装的な在り方について考え、班で意見をまとめたり、発表したりしている。</li> <li>高校生の着装的な関心をもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発表
6	被服材料			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服を題材に、さまざまな繊維の特徴や織りの特徴を確認し理解している。</li> <li>混紡の特徴を制服から具体的に理解している。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
7	被服材料の性能			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>下着を題材に、被服材料の性能について理解している。</li> <li>制服を題材に、被服に施される加工について調べ、整理することができる。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
8	被服の選び方			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服の取り扱い絵表示を確認し、品質表示について理解している。</li> <li>被服材料に応じた被服の整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言
9	被服の手入れ			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗剤の働きと汚れが落ちる仕組み、湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を科学的に理解している。</li> <li>洗濯・保管などの衣生活の管理ができる。</li> </ul>	ワークシート 行動観察 発言 アンケート

#### (4) 事前アンケートの実施

単元開始前に衣生活分野に関する興味・関心と日常の行動についてのアンケート調査を行い、その実態を把握した【図1】。対象は第1学年の生徒79名である。

調査から67%の生徒が「被服分野に興味・関心がある」ことが分かり(質問1)、「被服の素材」「加工・性能」「既製服の購入」に関しては、興味・関心が低い生徒が多いことが分かった(質問6、8、9)。「着装的な」に関わる「制服の着こなし」については70%の生徒が意識しており、「制服を着崩すこと」については50%の生徒が意識していないことが分かった(質問3、5)。



【図1】衣生活に関する興味・関心と日常の行動

(5) 授業の概要

第1学年を対象に授業実践を行った。本事例では、特にグループワークに力を入れた3～5時間目を報告する。身近な被服である制服を通して、青年期の着装について主体的に考えさせ、意見をまとめて発言させる活動を行った。その際、グループワークを通して他者の考えを聞き多様な意見を集約し発表する活動を取り入れた。これらの活動を通して、青年期の着装について自分なりの考えをもち、理解を深め、納得した上で被服を適切に着こなそうとする態度を育むことをねらいとした。

教員は、ファシリテーターとして授業を進行した。ファシリテーターとは「促進者」のことで、個々のもつ意見や感情、個性などを引き出し、生徒自身の気づきを促す存在である。教員の考える「答え」に導いたりするのではなく、生徒が主体的に考えを深められるような関わり方を実践した。そのために、生徒に対して助言をすべきか、見守るべきかを適切に判断する必要があった。また、生徒の思考を深めやすい環境を作ることも心掛けた。

3～5時間目を実施するに当たり、クラスを10班に分け、4名程度のグループで活動をさせた。

ア 3・4時間目の授業 【ワークシートの工夫】【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習内容を把握する。	
展開	○被服の流行の仕組みについて理解する。 <b>テーマ「制服には流行があるのか」</b> ・制服と普段着を比較し、制服は流行に左右されるか話し合う。 (グループワーク) ○衣生活の健康と安全について考える。 <b>テーマ「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」</b> <b>テーマ「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」</b>	○今、着てみたい普段着を絵で描かせ、それをもとに被服の流行の仕組みについて理解させる。 ○机間指導を行い、意見が出ていないグループには助言をする。また、できるだけ数多く書き出すよう促す。 ○付箋を用いることで、班員全員に発言の場を与え、積極的に話し合いに参加させる。 ○机間指導を行い、意見が出ていないグループには助言をする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋を使って意見を出す。</li> <li>・班で意見をまとめて発表する。 (グループワーク)</li> </ul> <p>○資源・環境と衣生活との関わりについて考える。</p> <p>テーマ「不要になった制服はどのように活用できるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で考えをまとめる。</li> </ul>	<p>○不要衣類の有効活用として、制服はどのように活用できるかを個人で考えさせる。その際、日本で古くから行われていた着古した木綿の着物の活用例を挙げる。</p>
まとめ	○次時の学習内容の概要をつかむ	

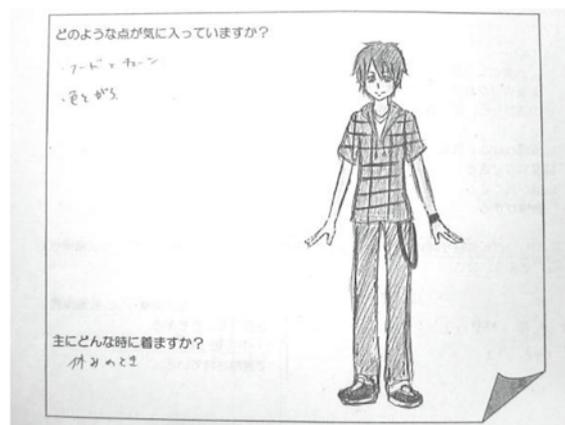
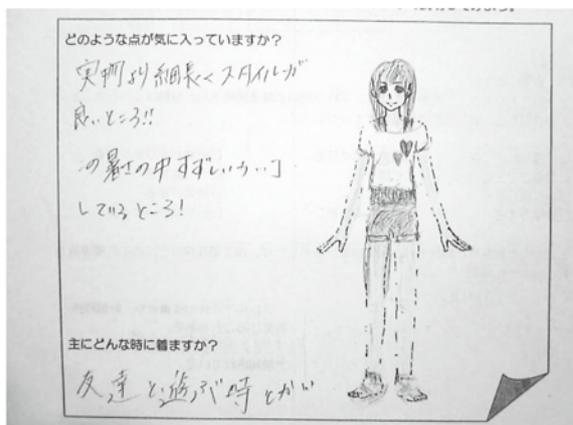
3時間目には、「被服の流行の仕組み」を扱った。ここでは生徒が絵や文字で表現しやすいようにワークシートを工夫した。また、テーマを設定して、言葉や概念などを用いて考察させる活動を行った。生徒の活動は、以下の2点である。

(ア) 自分が着てみたい普段着をワークシートに描く【資料1】。

現在流行している服を描き、色付けをして表現した。できあがった作品を、グループ内の生徒同士で確認し感想を述べ合った。

生徒たちは、現在の流行を取り入れつつ、その時の季節にあった自分の好みの服をデザインすることができた。しかし、似たような色・柄や形を用いている生徒も多くいた。そのため、アパレル業界で毎年かつ季節ごとに作り出される流行の仕組みについて説明すると、実感を伴って理解している様子が見られた。

【資料1】生徒の作品



(イ) テーマ「制服には流行があるのか」について考える。

制服と普段着を比較して、ワークシートに自分の考えを書き出した。その後、一つの考えを一枚の付箋に記入し、付箋を利用してグループで意見交換を行った。グループとしての考えをまとめて、クラス全体に向けて発表をした。

「制服には流行がある」と考えた生徒が3割程度いた。主な意見は以下のとおりである。

【「制服には流行がある」と答えた生徒の意見】

- ・昔は男子が学ランで、女子がセーラー服だったけど、今は男子も女子もブレザーを着るようになったから、制服にも流行はあると思う。
- ・制服を私服として着る人も多いから、今風でないとダサい。

### 【「制服には流行はない」と答えた生徒の意見】

- ・流行にのると、長い期間着られなくなってしまうから制服に流行はない。
- ・そもそも制服は流行に左右されないものである。

制服は学校の歴史でもあると考え、長く次の世代に引き継ぐものとする生徒と、よりおしゃれなものを着たいという気持ちから、制服も時代に合わせてデザインを変えていく必要があると考える生徒とで意見が分かれた。どちらの考え方も大切であると助言した。

4時間目には、「衣生活の健康と安全」について考えさせた。テーマを「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」と「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」の2点とした。付箋を利用して考えを引き出し、グループ協議の際も付箋を基に全員が発言できるように工夫した。付箋記入のルールとして、一つの考えを1枚の付箋に書くこととした。生徒の活動は、以下のとおりである。

① 「衣服圧が骨格や内臓に与える影響」についての考えを付箋に書き出す。

衣服に締め付けられることで起こった（起こる可能性のある）事柄を、これまでの経験を基に考えるよう促した。

② 「制服を着崩すことによって起こり得る健康障害」についての考えを付箋に書き出す。

制服を着崩したことで体調不良などが起こったことがないか（体調が振るわない様子を見たことはないか）、これまでの経験を基に各自に考えるよう促した。

③ 付箋からワークシート No. 1 に自分の意見を記入する【資料2】。

④ 付箋を用いて意見を出し合いグループとしての意見をまとめる。

⑤ クラス全体に向けて発表し、考えを共有する。

活動全体を通して、自分の考えをできるだけ多く付箋に書き、発言するよう言葉掛けを行った。また、付箋を利用して全員に発言の機会を与えたため、消極的な生徒にとっても意見を出しやすい雰囲気となった。



(グループワークで意見をまとめている様子)



(発表の様子)

【資料2】

ワークシート No. 1

☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響を考えてみよう。

自分の意見	班での意見
-------	-------

他の班の意見
--------

☆4 制服を着崩すことによって起こり得る健康障害を考えてみよう。

自分の意見	班での意見
-------	-------

他の班の意見
--------

〈グループ発表の内容〉

☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響を考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・絞めつけられて苦しくなる。</li> <li>・服装によって体型が変わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着圧の靴下を履いて1日生活したら、2～3日足の色が青っぽくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の形が変わる</li> <li>・骨の成長が妨げられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腸が圧迫されて便秘になる。</li> <li>・血流が悪くなり冷え性になる。</li> </ul>
--	--	--	---

☆4 着崩した制服によって起こり得る健康障害を考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートやズボンの腰ばきは、内臓を冷やす。</li> <li>・冷えから体調を崩し風邪をひく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートのウエスト部分に、あせもができやすくなる(重なりが多く赤くなる)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカートを折りすぎると、お腹が苦しく(痛く)なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬に胸元を大きく開けていると、冷えて風邪をひく。</li> </ul>
--	--	--	---

以上が主な意見である。昔の衣服圧の例(コルセットやてん足など)を挙げて説明し、「☆3 衣服圧が骨格や内臓に与える影響」を考えさせたため、少し極端な意見も見受けられた。

「☆4 着崩した制服によって起こり得る健康障害」については、女子が制服を着崩したことによる健康障害についての意見が多く、男子の制服を着崩すことによるものについては、ほとんど意見を出すことができなかった。

イ 5時間目の授業 【授業の展開の工夫】【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習内容を把握する。	
	○制服着用時の寒さや暑さへの対策などから、被服の保健衛生的機能を理解す	○前時の学習内容を振り返り、制服着用時の暑さや寒さへの具体的な対策を考えさ

展開	<p>る。</p> <p>○被服の社会的機能を考え理解する。</p> <p>○被服の社会的機能を踏まえて、制服の着装的在り方について考える。</p> <p><b>テーマ「制服の着こなしを考えてみよう！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインライティングを用いて班で意見をまとめて発表する。</li> <li>・プレゼンテーション用ポスターを作成する。</li> </ul>	<p>せて、被服の保健衛生的機能を理解させる。</p> <p>○多様な職業の制服を取り上げて、被服の社会的機能を具体的に説明する。</p> <p>○被服の社会的機能の観点から、制服の着装的在り方（なぜ着崩してはいけないのか）を生徒自身に考えさせる。</p> <p>○制服の着装から青年期の日常生活における着装についても考えるように促す。</p> <p>○ブレインライティングを用いることで、班員全員に発言の機会を与え、話し合いに参加させる。</p> <p>○机間指導を行い、意見が出ていないグループへは助言をする。</p> <p>○ポスターを作成することで、グループ内の意見をまとめさせ、他者に分かりやすく伝えられるようにさせる。</p>
まとめ	○次時の学習内容の概要をつかむ。	

5時間目は、盛りだくさんの内容をスムーズに展開できるように工夫した。前時に引き続きテーマを設定して言葉や概念などを用いて考察させる活動を行った。その際、付箋を利用した。生徒の活動は、以下のとおりである。

- ① 制服着用時の防寒、防暑対策について具体的に考える。  
前時の学習内容を参考にさせるため、ワークシート No. 1 【資料2】の記載内容を確認させた。
- ② 被服の保健衛生的機能について理解する。
- ③ 被服の社会的機能について考える。  
多様な職業の制服の写真を提示しながら、意見が出るように促した。
- ④ 被服の社会的機能について教科書で確認する。
- ⑤ 「制服の着装的在り方」について考える。  
テーマを「制服の着こなしを考えてみよう！」とし、ワークシート No. 3 【資料3】を用いて制服および日常生活における青年期の着装について、制服の着装を基に考えさせた。視点として、次の4点を提示した。  
  - Q1 ネクタイをきちんとしてはいけないのはなぜ？
  - Q2 短いスカートはどうしていけないの？
  - Q3 ズボンの腰ばきはどうしていけないの？
  - Q4 シャツの裾だしはどうしていけないの？
- ⑥ 各視点について付箋を用いてグループで意見を出し合い、グループの意見をまとめて発表をする。  
生徒は、校則があるから制服を着崩してはいけないと考えていた。授業を通して、制服の着装について考えさせたことにより、互いの考えをグループ内で出し合い、同調したり反論したりする活動を通して、新たな視点で考えをまとめ、発表することができた。さらに、授業後もグ

ループごとの意見を確認しながら意見交換する様子を見ることができた。これらのことから、制服および日常生活における青年期の適切な着装に対する意識を高めることができたと考える。

【資料3】

ワークシート No. 3 制服の着こなしを考えてみよう！	
Q 1 ネクタイをきちんとしなくてはいけないのはなぜ？	
A 1	補足
Q 2 短いスカートはどうしていけないの？	
A 2	補足
Q 3 ズボンの腰ばきは どうしていけないの？	
A 3	補足
Q 4 シャツの裾だしはどうしていけないの？	
A 4	補足

【班の発表内容】

Q 1 ネクタイをきちんとしなくてはいけないのはなぜ？			
・しっかりとした印象を与える。	・見栄えをよくする。	・身だしなみへの気遣いの度合いがまわりの人に分かる。	・ゆるめているとだらしく見える。
Q 2 短いスカート丈はどうしていけないの？			
・痴漢などの被害にあいそう。	・学校という場にあわない。TPOを考える。	・折ったところがしわになり、だらしく見える。	・まわりの人に迷惑をかける。見ていて気分がよくない。
Q 3 ズボンを腰ばきするのはどうしていけないの？			
・ウエストからパンツが見えてよくない。見たくない。	・裾がぼろぼろに破けていて、だらしく見える。	・足が短く見えて不格好に見える。	・裾が地面について不衛生。
Q 4 シャツの裾だしはどうしていけないの？			
・上着着用時には全体のバランスが崩れる。	・身だしなみへの気遣いの様子が分かる。	・清潔感がない。スッキリとした印象を与えない。	・だらしく見える。



(発表後、グループワークで作成したポスターを確認している様子)

## (6) 単元終了後の生徒の意識

### ア 本校の制服についての意識

単元終了後に行ったテストの中で、これまで学んだことを踏まえて、本校の制服について「着心地」「デザイン性」「自分の考えや思い」をキーワードとして意見を記述させた。

制服についての意見としては、気に入って着ているとの意見が多かった。次に、シャツの色について述べるものが多かった。汗じみが目立つので夏に着用するのが嫌だという意見と、青いシャツが本校の特徴なので気に入っているという意見とで分かれた。下着を着用することで汗じみ対策ができることを授業で伝えたが、実践してみるという意見を述べた生徒も見られた。また、ネクタイについて意見を述べるものも多かった。現在のホック式タイプがよいという意見もあったが、ホック式タイプではなく通常のネクタイに変えて欲しいという意見も多数あった。理由としては、ネクタイの結び方を知らないまま社会人になることへの不安を述べていたものが多かった。ネクタイの結び方の授業を検討する必要がある。

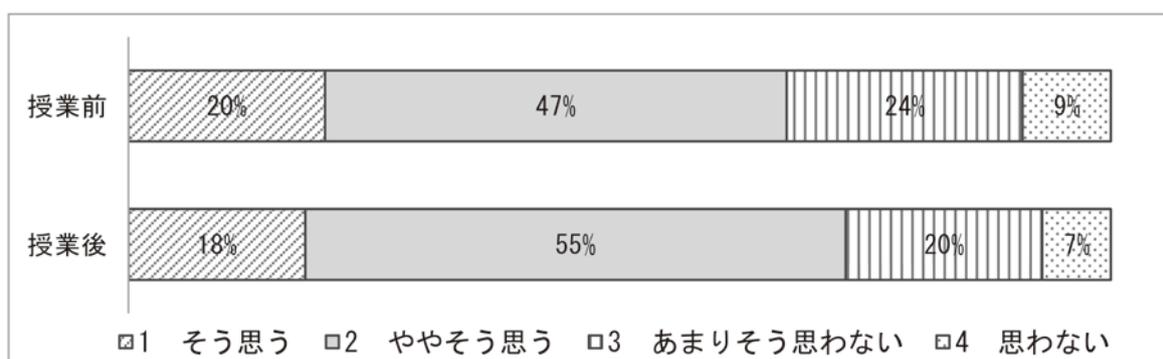
#### 【主な意見】

- ・僕はこの高校に来て良かったと思います。その理由は、制服が中学校のものより着心地よく着ていて過ごしやすいためです。デザインも、他の学校のものより気に入っています。ワイシャツが水色なので、汗など目立ちますが、ワイシャツの中に肌着を着ればそんなに目立たないことを授業で知りました。この夏、肌着を着て汗じみの予防をしていけたらと僕は考えています。
- ・私はこの高校の制服はカッコいいデザインだと思います。デザインだけでなく、着やすいし、授業で機能性があることも知りました。ただ一つネクタイを変えて欲しいと思います。本校のネクタイはホックで早く簡単にとめられますが、私はちゃんと縛る方がいいです。将来大人になった時に、ネクタイの縛り方がわかるよう、今から身に付けておきたいからです。
- ・私がこの高校を受験した理由の一つは、制服がかわいくて自分も着たいと思ったからです。他校とは違う青い色のシャツを私はとても気に入っています。また、自分で縛るものと思っていたネクタイが、挟むだけで楽につけられるところもよいと思います。さらに、私は夏のスタイルも好きです。シャツが薄地になっていること、着ているときちゃんと風通しがあること、見た目に涼しげな色であることがよいと思います。オーバーシャツの機能性も知ったので、夏は半そでを着ようと思います。制服はあと2年間しか着られないから、大切に着たいと考えています。

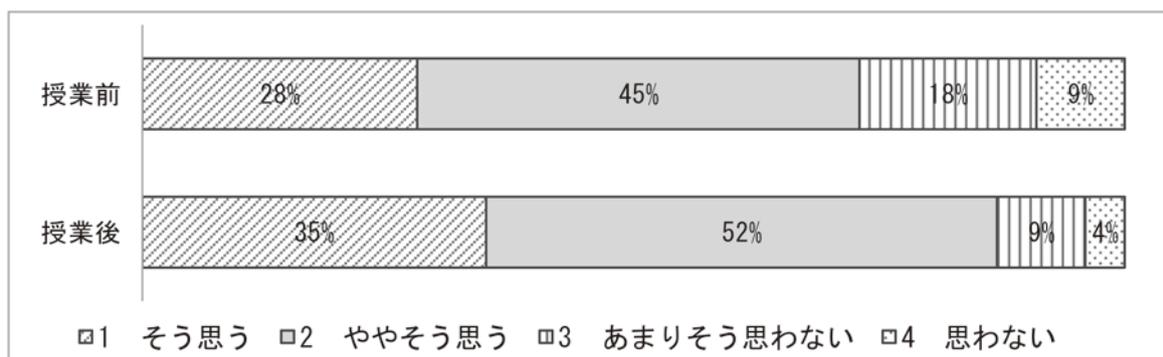
## イ 事後アンケートによる変容の確認

単元開始前と同じく衣生活分野に関する興味・関心と日常の行動についてのアンケートに加えて、「制服の着こなしで気を付けていること」と「授業の感想」を質問し、その実態を把握した。対象は第1学年の生徒79名である。

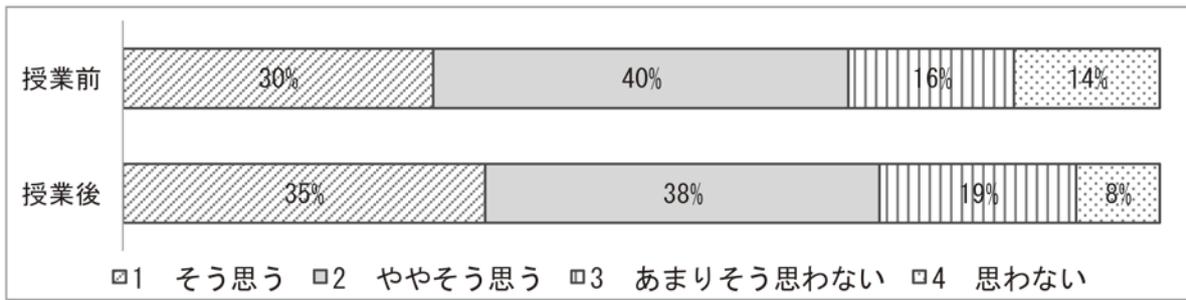
大きく変化したのは、質問6、7、8、9の結果である。授業を通して「被服の素材」「加工や性能」「被服の機能」「既制服の購入」に興味・関心が高まったことを示している【図7、8、9、10】。これは、制服を題材とした被服に関する学習を通して、被服をデザイン重視で選んでいた生徒たちが、被服材料のもつ性能や特徴などを理解し、取り扱い絵表示を見て被服を選ぶことの大切さを学べた結果であると考えられる。次に、本事例とした「着装」についての質問3、4、5では、「制服の着こなし」「制服の着崩し」に関して意識が高まった結果が得られた【図4、5、6】。また、質問11の「自分で制服の管理・手入れをしている」に関しては90%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答した【図12】。着装時に気を付けていることと着装後に維持管理のために自分でやっていることについての具体的な記述も多数あった。さらに、制服を題材として行った単元の学習を通して、質問1「被服分野への興味・関心」、質問2「被服をデザインすることやコーディネートをする事への興味・関心」も高められた結果を得ることができた【図2、3】。結果は以下のとおりである。



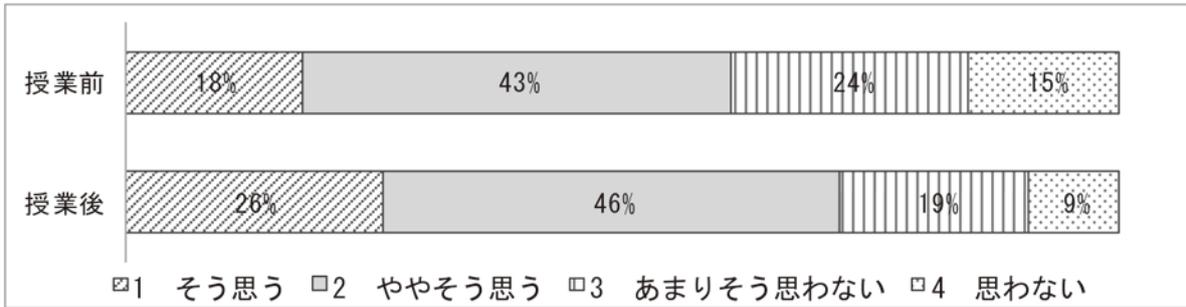
【図2】質問1 被服分野に興味・関心がある



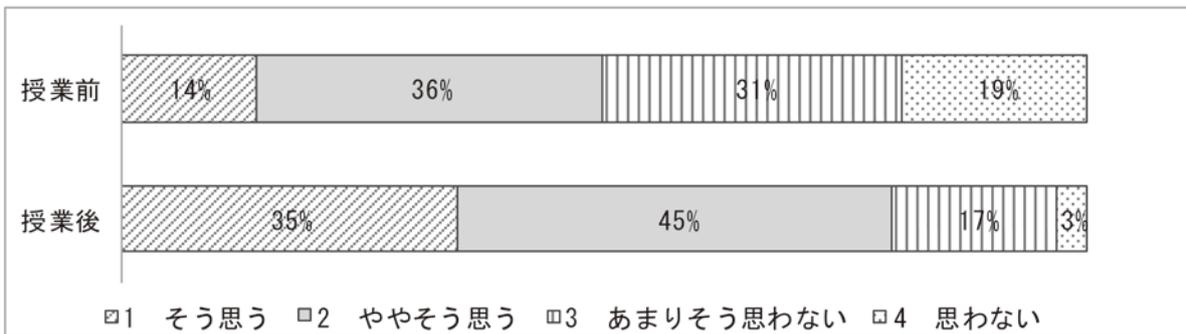
【図3】質問2 被服のデザインやコーディネートに興味・関心がある



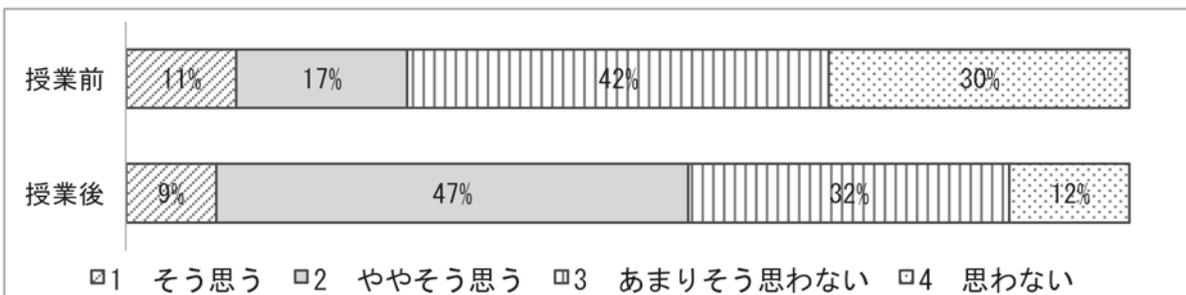
【図4】質問3 制服の着こなしで気を付けていることがある



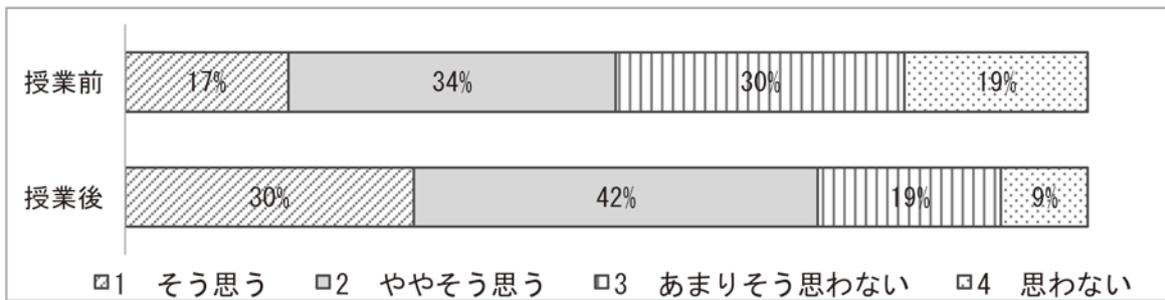
【図5】質問4 体調を崩さないような被服の着方をしている



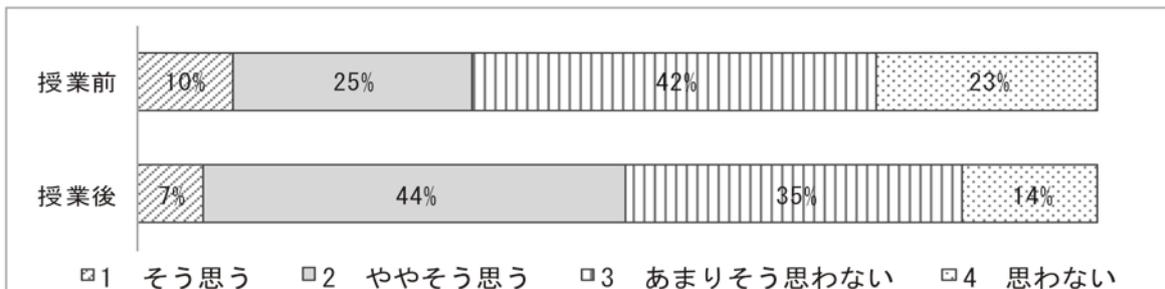
【図6】質問5 制服を着崩すことについて考えたことがある



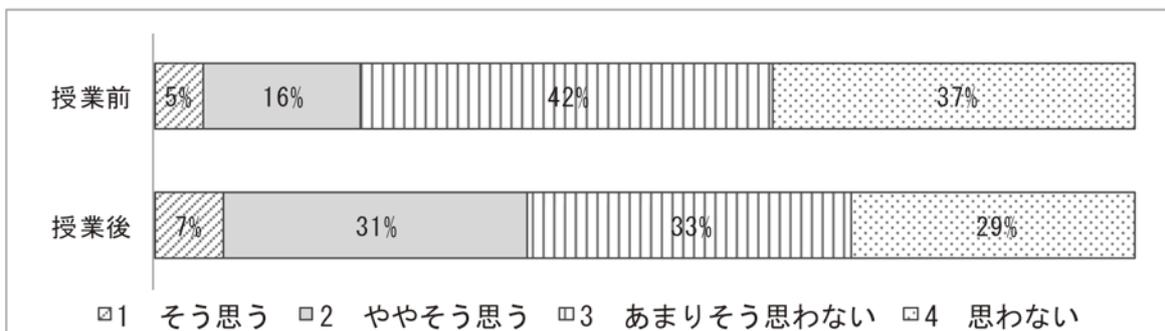
【図7】質問6 被服の素材について興味・関心がある



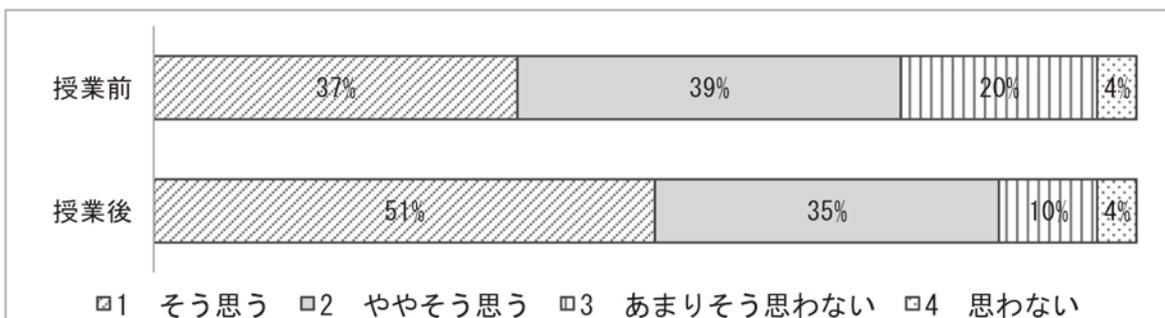
【図8】質問7 下着の着用目的を考えたことがある



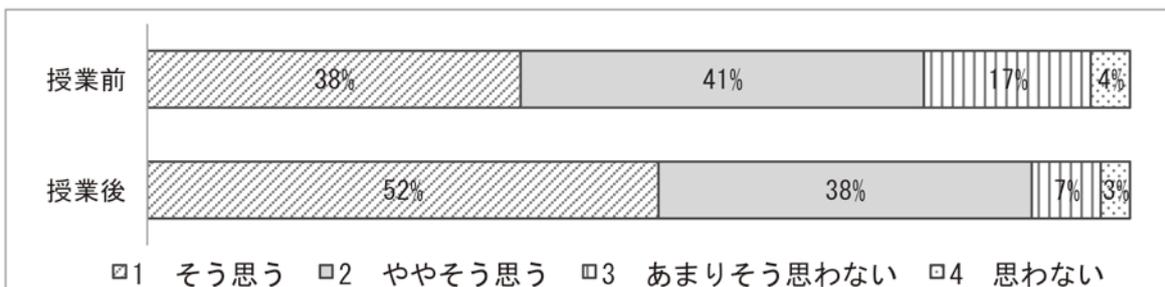
【図9】質問8 被服の性能や加工について興味・関心がある



【図10】質問9 既製服を購入する際、気を付けていることがある



【図11】質問10 被服素材によって洗い方を変えることを知っている



【図12】質問11 自分で制服の管理・手入れをしている

### 「制服の着こなしで気を付けていることがある」に関する記述内容

- ・清潔に見えるように、着崩さず汚さないようにしている。
- ・腰パンにしないようにして、ズボンの裾を汚さないようにしている。
- ・スカートのプリーツがとれないようにしている。
- ・きちんと着た方がかわいい制服なので、スカートの長さを調節しない。
- ・制服に汚れがないか確かめてからハンガーに掛ける。
- ・しわにならないように帰宅後ハンガーにかけたり、時々アイロンをかけたりする。

### 「授業の感想」に関する記述内容

- ・服はただ着るだけだと思っていたけど、たくさん大事な役割があることを知った。
- ・服にはそれぞれの役割があり、またそれぞれ違った管理の仕方があることを学んだ。
- ・服には取り扱いの方法がいろいろあってどれも違うから大変だなと思った。
- ・服は全部洗濯機で洗えるものだと思っていた。洗えないものもあることが分かった。
- ・今までサイズしか見ないで買っていたから、失敗することが多々あった。授業を受けてから、前よりは失敗しなくなり学んでおいて良かったと思った。
- ・制服はなぜ着崩してはいけないか、自分たちで考えることができたし、詳しく知ることができた。それを踏まえた上で、これから高校生らしく制服を着ていきたい。
- ・授業を受ける前は、被服にはあまり興味がなかったけれど、授業を受けてからは既製服・制服に興味をもつようになりよかった。

## 3 まとめ

### (1) 成果

本事例では、制服という生徒にとって最も身近な題材を用いて、生徒に衣生活に関して考えさせ、意見をまとめて発言させる活動を行った。毎時間自分の考えをワークシートに記入させ発言させることを試みた。これらを繰り返すことにより、生徒たちは徐々に主体的に考えて自分の意見をもつことができるようになった。教員は、生徒が積極的に発言できるよう、机間指導の中で一人一人の考えを認めるような声掛けを行い、発言しやすい雰囲気をつくることに努めた。また、様々な意見をクラス全体で話し合い認め合ったことで、生徒が他者の意見に対し興味・関心を持ち聞く態度を育むこともできた。グループワークでは、他者の考えを聞き多様な意見を集約して発表する活動を行ったが、少人数グループでの活動は消極的な生徒でも発言しやすいものとなったため有効なものとなった。さらに、このような活動を行った単元終了時のアンケートの感想からは、「被服への理解の深まり」「購入の際の注意」「着装」に関する意識の変化を確認することができた（上記「授業の感想」に関する記述内容の下線部）。これらのことから、被服に関する理解を深め、主体的に衣生活を営む態度を育むことができたと考える。

### (2) 課題

- ① 青年期の着装については、生徒がこれからも考えていかなければならないものである。これからは授業の中で取り上げ、更に意識を高めたい。
- ② グループワークでは、今後はそれぞれに役割を与え、話合いのスキルを身に付けさせ、より積極的な話合いとなるようにしたい。
- ③ 本事例を発展させ、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動として取り組ませ、主体的に衣生活を営む態度を更に育んでいきたい。

## 事例3 子どもを生き育てることについて主体的に考え、子どもと関わろうとする態度を育む指導の工夫

### 1 ねらい

少子化や核家族化が進む中、生活の中で幼い子どもと接したり、乳幼児を育てている親の姿を見たりする環境にない生徒が多い。そのため、様々な学習場面において、子どものイメージが湧きにくいことや、親の役割を自分たちの問題として捉えにくいことが課題となっている。

そこで本事例では、「家庭総合」における保育分野での調査研究を行った。子どものイメージを想起させるような学習教材を取り入れ、その活用法を工夫した。また、ケーススタディやペアワーク、グループワークなどの活動を取り入れ、子どもや子育てについて主体的に考えるような授業を展開した。その中で、子どもを生き育てる上で起こり得る身近な問題について話し合い、理由や意見をまとめたり、問題の解決方法を探求したりすることによって、学習内容の理解を深め、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと関わろうとする態度を育むことをねらいとした。

### 2 授業実践

単元名：子どもを育てる

- (1) 単元の指導内容 使用教科書（「家庭総合 ともに生きる 明日をつくる」教育図書）
- ・乳幼児期の特徴を捉えさせ、人間の発達段階にとって重要な時期であることを理解させる。
  - ・親の役割と保育の重要性や地域及び社会の果たす役割について、様々な教材を使った活動などを通して理解させる。
  - ・子どもを生き育てることや子どもと関わることを自らの課題として捉えさせて考えさせる。

#### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達と保育について関心をもって、実践的・体験的な活動に取り組もうとしている。</li> <li>・保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の役割や子どもを生き育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> <li>・近年の少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習において、子どもと触れ合ったり、適切にかかわったり、子どもの発達の様子を観察したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であることを理解している。</li> <li>・子どもの発達と遊びや環境との関わりについて理解している。</li> <li>・乳幼児期における親や家族の関わり方、家庭生活が果たす役割の重要性について理解している。</li> </ul>

#### (3) 単元の指導計画（20時間）

毎時間の取組として、実習やケーススタディ、資料の読み取り、講話などのうちからいずれかを取り入れ、その活動を通して学んだことをまとめさせたり、意見や感想を書かせたりする。特に、5～7時間目、9時間目、13時間目、14・15時間目は、ペアやグループで活動を行い、お互

いの考えを伝え合い、課題を探究していく活動を充実する。

1～16 時間目は第 2 学年、17～20 時間目の幼稚園実習関係の授業は第 3 学年を対象に行う。

時間	学習内容	評価				
		関	思	技	知	評価規準
1	○〈発表〉「小さかったころを思い出してみよう」	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の記憶をまとめ、発表することができる。</li> <li>・他の生徒の発表をよく聞き、関心をもって乳幼児について考えようとしている。</li> </ul>
2	○乳幼児が生まれながらにもつ能力と保育の必要性を知る。 〈実習〉子どもの顔、大人の顔を描いてみよう 〈DVD〉生命の誕生 2～生命を育む～				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児と大人の顔の違いを図示し、その違いから保育の必要性を考え理解している。</li> <li>・乳児の特徴と能力について理解している。</li> </ul>
3	○新生児の特徴を知る。 〈実習〉新生児人形を観察しよう ○子どもの成長・発達の様子について理解する。			○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた乳幼児の扱いが適切にできる。</li> <li>・乳幼児期が人間の発達段階において重要な時期であることを理解している。</li> </ul>
4	○〈読み物〉資料を読み、子どもの社会性の発達からみる親の役割とその重要性について考える。 ○幼児期のものとの捉え方を理解する。 〈実習〉三歳児の描く人物像は？		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期における親や家族の関わり方に関心を持ち、家庭生活が果たす役割の重要性について考えをまとめている。</li> <li>・幼児期のものとの捉え方を理解している。</li> </ul>
5	○親の役割について考える。 〈グループワーク (KJ法)〉 「親の役割について考えよう！」		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の役割について考えるとともに、班のメンバーの意見をまとめたり、発表したりしている。</li> </ul>
6	○子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣について理解する。 ○子どもの食生活について考える。 〈ケーススタディ (ペアワーク)〉 子どもの偏食、夜更かしへの対応		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣について理解している。</li> <li>・子どもの生活上の問題に対して、親としてどのように関わるかを考え、意見をまとめたり、発表したりしている。</li> </ul>
7	〈グループワーク〉 「幼児のおやつに何を与える？」		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の子どもの間食の意義を理解している。</li> <li>・幼児のおやつについて、健康に配慮した献立として考えをまとめている。</li> </ul>
8	〈実習〉離乳食試食 〈実習〉おやつ作り				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた離乳食の状態と味を理解している。</li> <li>・幼児期に適した間食を作ることができる。</li> </ul>
9	○子どもの衣生活について考える。 〈グループワーク〉 「子どもにどんな服を着せる？」		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの衣服の条件について考えて衣服を選択し、その選択理由をまとめたり、発表したりしている。</li> <li>・子どもの身体の特徴や心身の発達、衣服の管理のしやすさ、安全性などを考慮した衣服の選択について理解している。</li> </ul>
10	○子どもの遊びと児童文化について理解する。 〈実習〉手遊び歌	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について理解している。</li> <li>・積極的に遊びを体験し、児童文化財について理解しようとしている。</li> </ul>
11	〈実習〉お月見		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中行事・伝承遊びの価値に気付き、考えたことを発表している。</li> </ul>

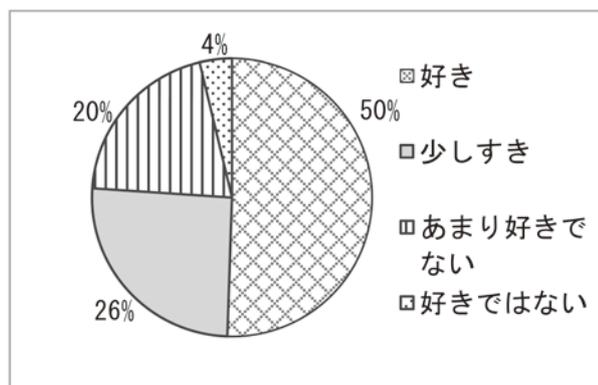
12	○乳幼児の健康管理について理解する。 〈ケーススタディ〉 頭痛で保育園を休みたい子どもへの対応		○		○	・乳幼児の健康管理の重要性と親の役割について理解している。 ・子どもの体調の変化に気付いた時、親としてどう関わるかを考え、まとめたり、発表したりしている。
13	○乳幼児の安全について考える。 〈ケーススタディ (グループワーク)〉 危険な行動、事故の例を挙げ、班ごとにケースとその対応策を考える。		○		○	・乳幼児の危険な行動や事故を予測し、その予防策について考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 ・安全教育の重要性と親の役割について理解している。
14	○子育てに関わる問題について考える。 〈グループワーク〉 「子育てシミュレーション ～ある家族の1日～」	○				・子育てを自分たちの問題として捉え、与えられた条件の中で最適な1日のスケジュールを考えようとしている。 ・子育てを支援する社会資源を踏まえながら、シミュレーションで浮上した問題点の解決に向けて考えを深めている。
15			○			
16	○子どもを取り巻く環境の変化や子育てにかかわる問題について考える。 〈講話〉イクメン体験談		○			・少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・子育てを自分たちの問題として捉えようとしている。
17	○幼稚園交流オリエンテーション	○				・子どもに関心をもち、目的をもって幼稚園交流に臨もうとしている。
18	○幼稚園交流(2時間)				○	・適切な態度で子どもとかかわったり、子どもの発達の様子を観察したりすることができる。
19						
20	○幼稚園交流報告会				○	・各班の交流のまとめの発表を聞き、異なる年齢の園児の様子を理解する。

#### (4) 生徒の子どもに対する意識の調査

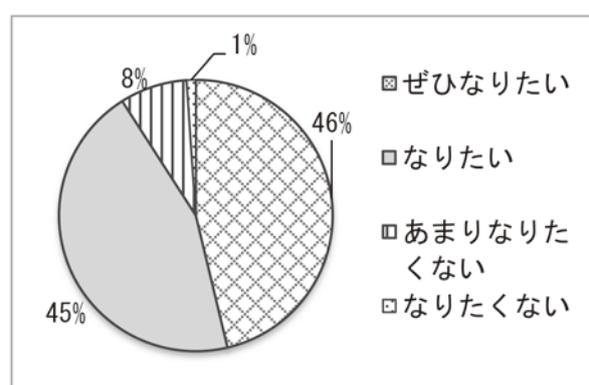
##### ア アンケートによる調査

授業実施前にアンケートを行った。対象は第2学年の生徒188名である。

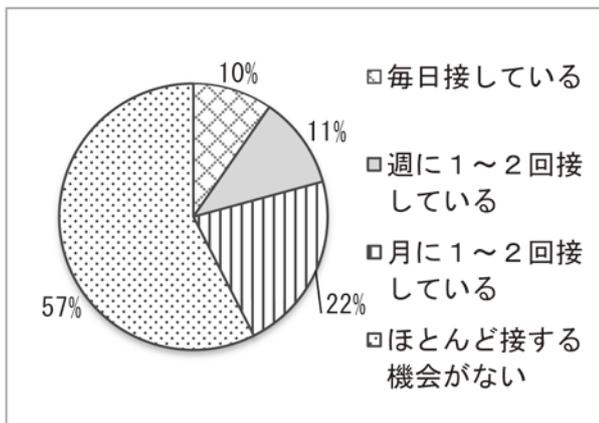
76%の生徒が「子どもが好き・少し好き」と答え【図1】、91%の生徒が「親にぜひなりたいたい・なりたいたい」と答えていた【図2】。しかし、57%もの生徒が身近な生活の中で子どもと「ほとんど接する機会がない」と答えていた【図3】。また、接する機会があると答えた者のうちの47%が接する子どもの年齢として「小学校低学年の子ども」を挙げていた【図4】。



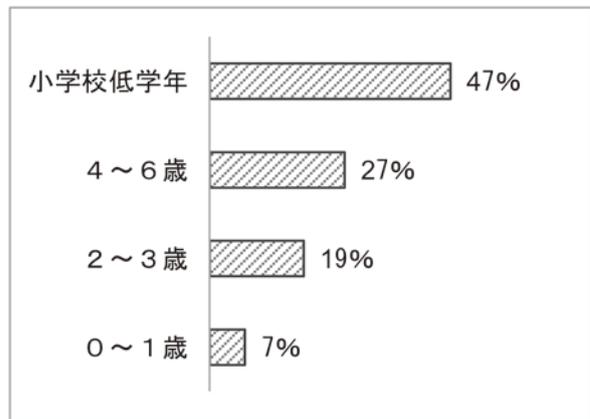
【図1】子どもが好きですか



【図2】将来親になりたいですか



【図3】子どもと接する機会



【図4】接する子どもの年齢

### イ イメージマップによる調査

生徒の子どもに対する意識を客観的に把握するために、イメージマップによる意識調査を行った。10分間で「子ども」という言葉からイメージする単語を思いっただけ挙げさせ、その関連を線で結んで表現させた。有効回答者数は111名である。

イメージされた単語の数は以下のとおりである【表1】。またイメージされた内容の代表的なものを【生徒A】【生徒B】を例として示す。生徒の子どもに対するイメージが非常に貧困であることが確認できた。

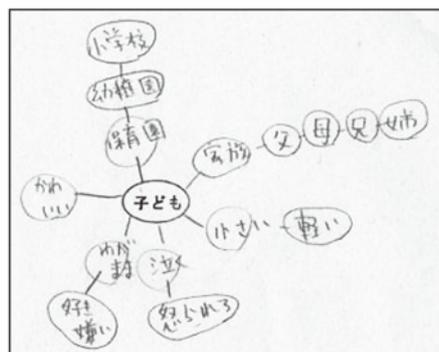
【表1】イメージされた単語数

	平均値	最小値	最大値
単語数	11.1	1	27

【生徒A】単語数9個



【生徒B】単語数15個



### (5) 授業の概要

単元を通して、自分が子どもを生み育てることについて主体的に考えることにより、これからの生活の中で子どもと関わろうとする態度を育むことをねらいとした。そのために、自らの考えをもつこと、他に考えを伝えること、また他の意見を聞くことを繰り返す授業を行った。ここでは、生徒の活動を特に重視した5~7時間目、9時間目、13時間目、14・15時間目の概要について述べる。

グループワークでは1クラスを8班に分けた(1班4~5人)。グループワークが5回あるため、毎回代表者を替え、全員がグループでの司会、クラス全体での発表を行うことを予告して授業に臨んだ。

ア 5時間目の授業 【言葉や概念などを用いて考察させる活動】

「親の役割について考える」

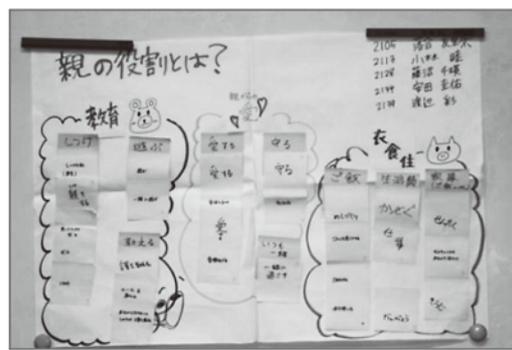
段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	○〈グループワーク〉 「親の役割について考えよう！」 ・ワークの手順について説明を聞く。 ・ブレインライティングを行う。 ・K J法によりまとめる。 ・発表する。 ・グループワークの振り返りをする。	○K J法の作業手順を説明し、例を示す。 ○付箋紙を用いたブレインライティング、K J法による意見の集約と発表が円滑に行えるよう生徒の状態を観察しながら助言する。 ○K J法で出された生徒たちの意見を集約する形で、親の役割のまとめができるようにする。
まとめ	○本時の学習内容のまとめをする。 ○次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

5時間目では、ブレインライティングにより生徒一人一人に「親の役割とは何か」について意見を出させ、その後、K J法により班ごとに意見をまとめさせた。事前に一人6枚ずつ付箋紙を配り、意見を出す意識を高めたことにより、普段自分の意見を発言することを嫌がる生徒も積極的に考えて記述する姿を見せた。また、生徒全員に発言の機会を与えることにもつながり、消極的な生徒も意見を述べることができた。

生徒にとってK J法での活動は初めての経験であり、ブレインライティングで出された意見をグループ化することに試行錯誤する姿が見られた。活動が滞る班には適宜助言をした。試行錯誤するうちに、生徒の活動が活発に行われるようになり、発表のための作成物に関しても短い時間の中、それぞれの班で工夫をして制作することができた。



(グループでの話し合いの様子)



(K J法でまとめたもの)

**授業後の生徒の感想**

- ・活動を通して親の役割はたくさんあるのだと改めて感じた。たくさんあって驚いた。
- ・グループによってまとめ方が異なっても、カードを見ると共通する部分がたくさんあった。
- ・親はこれだけの役割を果たすなんてすごい。たいへん。親に感謝。
- ・グループで意見を出し合うなかで考えが深まった。
- ・充実感のある授業だった。楽しかった。

## イ 6時間目の授業 【適切な解決方法を探求させる活動】

「子どもの食生活について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	○基本的生活習慣・社会的生活習慣について知る。 ○子どもの食生活について考える。 〈ケーススタディ（ペアワーク）〉 親にどんなアドバイスをしますか？ ケース1：野菜嫌いスナック菓子好きの娘 ケース2：夜更かし、寝坊、朝食欠食の息子 ・発表する。 ・まとめる。	○生活習慣とはどういうものか考えさせる。 ○子どもの食生活上の問題に対して、親としてどう関わるかを考えさせる。その際、それぞれが考えた親の対応を、子どもがどう感じるかも考えさせる。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動の「子どもの生活の現状」を振り返らせる。
まとめ	・本時の学習内容のまとめをする。 ・次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

6時間目では、生活習慣や食生活の学習を行った後、授業で得た知識を実生活で活用する実践的な態度を育むため、子どもの食生活上の問題に対して親としてどう関わるかケーススタディを通して考えさせた。

### 【設定したケース】

ケース1 野菜嫌いでスナック菓子好き（偏食・間食過多）

ケース2 夜更かし、寝坊、朝食欠食

### 【生徒の活動】

- ① ケースを読み自分の考えをまとめた後、ペアとなり、まず一人が意見を出す。
- ② 話し手が出した台詞や対処法に対して、聞き手は自分が子どもだったらどう感じるかという視点で意見を述べる。
- ③ 役割を変えて繰り返す。
- ④ ペアの代表が話し合いの内容を簡潔に発表し、クラス全体で意見を共有する。

生徒の中には自分自身が野菜嫌いであったり、朝食を欠食していたりといった問題を抱えている者もいる。ケースで扱った子どもの問題は、将来親になった時に自分の子どもにも起こる可能性があることを、実感を伴って理解できたようであった。生徒一人一人が真剣に意見を出し合い、積極的に話し合う姿が見られた。生徒の反響も大きく、授業後には他のクラスの生徒から「早くうちのクラスでもやりたい」という声も聞かれた。

### ある生徒の意見

ケース	自分の意見	他者の意見
1 うちの娘（5歳）は野菜が嫌い。野菜は絶対食べません。スナック菓子は好きでよく食べるんですけどね。	・野菜を無理にでも食べさせる。 ・親が野菜をおいしそうに食べてみせる。	・よけい食べたくなくなるのでは？ ・野菜の大切さを教える。 ・一緒に料理をする。 ・スナック菓子の1日の量を定める。

<p>2 うちの息子（4歳）は9時に寝ればよいのに 10 時過ぎまでテレビを見て起きています。朝はぎりぎりの時間に起きて朝ご飯もほとんど食べずに登園します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9時になったらお化けが出ると脅す。</li> <li>・ 9時になったら電気を消す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ト라우マになるのでは？</li> <li>・ 怖くてよけい眠れないかも？</li> <li>・ 昼間いっぱい遊ばせる</li> <li>・ 寝る前に絵本を読んであげる。</li> <li>・ テレビを録画する。</li> <li>・ 朝に楽しみを作る。</li> </ul>
--	--	--

**授業後の生徒の感想**

- ・ 自分ではあまりアイデアが出なかったが、他の人の意見を聞くと「なるほど！」と思えた。
- ・ 自分が小さかった頃のことを思い出した。親の苦労が少し分かった。
- ・ 子どもとの生活はいろいろ大変だと思っていたけど、子どもと一緒に野菜を食べたり早寝早起きしたりと、逆に規則正しい生活ができるのではないかと思えるようになった。
- ・ 子どもが言うことを聞かなかつたら、つい脅したり叱ったりしてしまうと思うけど、違う方法を聞くことができよかった。自分が親になったら今回学んだことをいろいろ試したい。

**ウ 7時間目の授業 【判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動】**

**【ワークシートの工夫】**

「幼児のおやつに何を与える？」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉</p> <p>「幼児のおやつに何を与える？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークの説明を聞く。</li> <li>・ 班ごとに3歳児の2回分のおやつのおやつを献立を作る。</li> <li>・ 発表する。</li> <li>・ 班別に相互評価をする。</li> <li>・ それぞれの班のおやつのカロリー、砂糖、塩分、脂肪の量を計算する。</li> <li>・ 改善点があれば改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用する食品例 42 種類を「食品シート」において表と写真で提示する。 【資料1、2】</li> <li>○簡易ホワイトボードを用い意見を集約させる。</li> <li>○各班で発表する献立が重ならないように調整する。</li> <li>○黒板に献立と選んだ理由を書かせ発表させる。</li> <li>○それぞれの班の献立について意見を述べる。</li> <li>○幼児期のおやつは食事であり、適した食品・あまり適さない食品があることを知らせる。</li> <li>○栄養だけでなく嗜好も考慮させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習内容のまとめをする。</li> <li>○次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。</li> </ul>

7時間目では、グループワークで3歳児の2回分の「おやつのおやつ」を考えさせた。生徒に自由に献立を考えさせると、ホットケーキやクッキー、マフィンなど普段生徒が作っているものに偏ることが多いため、「ある家庭の台所」を想定し、使用できる食品を42種類に限定した。調味料は一般家庭にあるものを自由に使用できるようにした。使用できる食品は品名だけ示してもイメージが湧きにくいと考え、「食品シート」として品名と概量を記載したプリントをラミネート加工したもの【資料1】と、それらの写真を同じく加工したもの【資料2】の2種類を各班に配布した。

グループワークでは簡易ホワイトボードを用いて意見を集約させたことにより、班での話合い

が円滑に行われた。発表は各班2回分の献立であるが、2回分以上の献立を考えさせ、多様な意見を集めるために、各班で発表する献立が重ならないように調整した。

発表時に黒板に献立名を書かせ、その献立を選んだ理由を発表させた。発表後、各班の作った献立について相互評価し意見を出させた。他の班の発表で納得できない点があると質問をしたり、不適切だと思う点を指摘したりする意見も出た。

### 【資料1】食品シート

7. 幼児のおやつに何を与える？ 食品シート（生使用）			
食品名	量	食品名	量
ポテトチップ（のり塩）	小袋1袋 30g	小麦粉	
えびせん	小袋1袋 2.6g	食パン（8枚切り）	1枚
プリン		ご飯	子ども食器1杯
白玉団子	1パック6個	冷凍おにぎり	1個 50g
チョコレート菓子	1個 1.3g	カップヌードル	1個
せんべい（ばかうけ）	小袋1袋	フライドポテト	80g
練のたねビーナッツ	小袋1袋	焼きそば（冷凍品）	250g
クッキー（チョコクリーム入り）	1枚 1.2g	ウインナー	
キャラメル	1粒 5g	ハム	
茎わかめ	1袋 5g	卵	
するめ	20g	プレーンヨーグルト	
りんご		苺ヨーグルト	
みかん		チーズ	
バナナ		とろけるチーズ	
きゅうり		バター	
トマト		牛乳	
レタス		麦茶	
キャベツ		オレンジジュース	
にんじん		コーラ	
きつまいも		生クリーム	
じゃがいも		ミックスフルーツ缶詰	1個

### 【資料2】食品の写真



（簡易ホワイトボードを用いての意見集約の様子）

### 献立例

おやつ献立	選んだ理由
フルーツヨーグルト（果物缶詰、ヨーグルト）	フルーツからビタミンがとれる。ヨーグルトからカルシウムがとれる。食べやすい。
フルーツ生クリームサンド（果物缶詰、食パン、ホイップクリーム）、オレンジジュース	フルーツからビタミンがとれる。ホイップクリームの甘さを子どもが好む。おなかいっぱいになる。
サンドウィッチ（食パン、レタス、ハム、チーズ）、オレンジジュース	野菜、フルーツ、乳製品をバランス良くとれる。
ピザ（ハム、とろけるチーズ、トマト、食パン）、麦茶	嫌いな物でも食べられる。トッピングを子どもにさせると楽しい。麦茶はゼロカロリー。
お好み焼き（小麦粉、チーズ、キャベツ、ウインナー、卵）、麦茶	野菜も乳製品もとれる。栄養バランスが良い。麦茶はミネラルが含まれ体に良い。
じゃがバター 麦茶	材料費が安価で簡単にできる。炭水化物を摂取できる。じゃがいもをのどに詰まらせないため（麦茶）。
茎わかめ 麦茶	そのまま食べられるし栄養がある。ジュースより麦茶のほうが体に良い。
えびせん オレンジジュース	えびせんからカルシウムがとれる。大人も子どもも好き。手軽。オレンジジュースからビタミンがとれる。体によい。

話し合いと発表を通して、健全な食生活を送る上でのおやつ選びについて、分かったことや気付いたことをワークシートにまとめさせた。ワークシートに〈おすすめ〉〈注意〉〈その他〉とキーワードを入れたため、ほとんどの生徒が主体的にまとめることができた。

まとめたものを発表させながら、幼児期のおやつは食事であることや、適した食品と適さない食品があることを知らせ、それぞれの班の献立のエネルギー量や糖分、塩分、脂質の摂取量を簡易的に計算させた。このことにより、自他共に完璧な献立であると考えていた「フルーツ生クリームサンド+オレンジジュース」はエネルギー量が多いことや、子どもも大人も好きでカルシウムとビタミンの摂取に期待ができる「えびせん+オレンジジュース」は塩分が多いことに気付くことができた。食品選びの難しさを改めて感じたという意見が出た。

### 生徒のまとめ

- 〈おすすめ〉…乳製品（カルシウム）、果物（ビタミン）、するめ（あごが育つ）を取り入れる。  
嫌いなものも食べられる機会にする。一緒に作ると楽しい。
- 〈注 意〉…甘いものに偏らない。キャラメルなどは虫歯に注意。  
脂質・塩分・加工食品の取りすぎには注意。ピーナッツなどは幼児には与えない。  
餅などは細かくして与える（窒息の危険の回避）。
- 〈その他〉…がんばって毎日手作りするのも疲れる。その時間を子どもと関わる時間に充てる。  
コスト、簡単さも考慮する。嗜好も考慮する。  
食事に影響しない時間とタイミングに気を付ける。

## エ 9時間目の授業 【判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述させる活動】

「子どもの衣生活について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉</p> <p>「子どもにどんな服を着せる？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの説明を聞く。</li> <li>・班ごとに与えられた条件 2か月児 6月、12月 3歳児 6月、12月 にあった下着、アウターを選択する。</li> <li>・発表する。</li> <li>・発表まとめプリントに記入する。</li> </ul> <p>○子どもの体の特徴、着脱・洗濯のしやすさ、安全性を考慮して選択する必要があることを知る。</p>	<p>○下着、アウターについて形状・素材の違うもの（実物）を提示する。</p> <p>○衣服の選択の手順とプリントの記入例を示す。</p> <p>○「衣服シート」から選択した衣服の写真をプリントに貼らせる。</p> <p>○子どもの体の特徴、行動の特徴、発達も考えて選択するように促す。</p> <p>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、条件の違いによる衣服の選択の違いに気付かせる。</p> <p>○プレゼンテーションソフトを用いて皮膚疾患の例を示す。</p> <p>○ニンヒドリンを用いて下着や靴下が汚れやすいことを確認する。</p> <p>○幼児の衣服が原因で起こった事故について紹介する。</p>

まとめ	○本時の学習内容のまとめをする ○次時の学習内容を知る	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。
-----	--------------------------------	-----------------------------

9時間目では、グループワークで子どもの衣服について考えさせた。2か月児（首がすわらない、1日の大半を寝て過ごす）又は3歳児（活発に遊具などを用いたりお絵かきをしたりして遊ぶ、一人でこぼしながら食事をする）、季節では梅雨時の6月又は寒い時期である12月を設定した。同じ月齢、年齢と同じ季節を条件とした班を二つずつ作り、どのように衣服を着せるかを検討させた。

多くの生徒は幼い子どもと接する機会がほとんどないため、子どもの衣服に対するイメージは湧きにくいのではないかと考えた。イメージしやすくするための教材として、下着、アウターについて形状・素材の違う実物を複数提示した。提示した衣服の中にはそれぞれの月齢、年齢に適さないものも含めた。例えば、2か月児の衣服の中には前開きでない衣服、3歳児の衣服の中にはビーズの飾りのついた洗濯が容易ではない衣服、危険が予測されるようなチェーンやひもの付いた衣服やフード付きの衣服である。さらに、実物を写真に撮って一覧にした「衣服シート」を生徒に配布し、選択した衣服の写真をワークシートに貼らせることにより、どの服を選択したのか分かりやすくした。衣服の選択の際、実物を手に取って見ながら、子どもの身体の特徴、行動の特徴を踏まえて選択するように促した。生徒の中には、衣服を裏返し、取り扱い絵表示や組成表示を見て参考にしている生徒もいた。



(衣服を選んでいる様子)



(ワークシートにまとめている様子)

発表の際には、聞き手側の生徒には「発表まとめプリント」に記入をさせ、条件の違いによる衣服の選択の違いがプリント1枚で比較できるようにした。同条件の班が2班ずつあるため、2班が同じ衣服を選択すると想定していたが、全く同じコーディネートのはなかった。同条件の班を作ったことにより生徒の競争意識を刺激し、授業への意欲・関心をより高められたように感じた。

また、プレゼンテーションソフトを用いて「あせも」や皮膚疾患の例を示したり、ニンヒドリンで染色された下着や靴下を提示したりすることで、子どもの体の特徴や、目に見えない汚れ、下着の着用の効果を視覚的に分かりやすくした。

さらに、衣服が原因で起こった子どもの事故について紹介するとともに、2012年10月12日付の読売新聞の記事「経済産業省が子ども服の安全性に関するJIS規格を策定する検討を始める」を紹介した。

#### オ 13時間目の授業 【適切な解決方法を探求する活動】

「乳幼児の安全について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	

展開	<p>○〈ケーススタディ (グループワーク)〉</p> <p>①子どもの危険な行動、事故の原因をあげる。</p> <p>②①の中からケースを一つ選択し、対応を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で話し合う。</li> <li>・発表及び発表のまとめプリントを記入する。</li> </ul> <p>○子どもの事故についてまとめる。</p>	<p>○簡易ホワイトボードを用い意見を集約させる。</p> <p>○各班で発表するケースが重ならないように調整する。</p> <p>○乳幼児の安全教育の重要性と親の役割について理解させる。</p> <p>○子どもの気持ちも考えさせる。</p> <p>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、ケースの違いによる対応の違いに気付かせる。</p> <p>○危険な行動や事故の予防策だけでなく、起こってしまったときの救急法も知らせる。</p> <p>○年齢による事故の違いを知らせる。</p>
まとめ	<p>○本時の学習内容のまとめをする。</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>○感想、自己評価をワークシートに記入させる。</p> <p>○ワークシートの提出を伝える。</p>

13時間目では、グループワークでケーススタディに取り組んだ。ケーススタディは本時で3回目であるため、ケースも生徒達に考えさせた。まず、子どもの危険な行動や事故の原因を一つの班で10個以上考えさせ、その中から一つをケースとして選択し、対応策を考えさせた。その際、各班のケースが重ならないように調整した。ケーススタディに慣れてきたせいか、教師から促されなくても「子どもの気持ち」に寄り添った対応策を考える班が多くなった。また、簡易ホワイトボードを用いて意見を集約させることにより、班での話し合いが円滑に行われた。

発表の際には、聞き手側の生徒には「発表まとめプリント」に記入をさせ、ケースの違いによる対応の比較とまとめがプリント1枚でできるようにした。

#### あるクラスで出されたケースとその対応策

班	ケース	対処法	その他の意見（他の班の意見）
1	もちで窒息する	与えない。幼いうちは与えない。 嘔む見本を見せる。掃除機準備。→ ゆっくり食べさせる。	小さくして与える。 掃除機は危険ではないか？
2	暖房器具に触れて火傷する	器具の周りに柵をつける。 親が気を付ける。	火傷しない暖房にする。 つけたままにしない。
3	鼻に物を詰め込む	小さい物を手の届くところに置かない。 親が気を付ける。	説明をしてしつける。
4	コンセントを触って感電する	コンセントカバーをつける。 コンセントを隠す。	説明をしてしつける。
5	「危ない」と親が言うことをやりたがる	説明をしてしつける。 時には叱る。目を離さない。	危なくないように親がやり方を教える。一緒にやる。
6	車道に飛び出す	手をつなぐ。車道側を歩かせない。 道のそばで遊ばせない。	説明をしてしつける。
7	高い所から落ちる	高い所に登らせない。 親が目を離さない。	踏み台となるものを置かない。 階段・ベランダ・浴槽などに柵や鍵をつける。

8	ドアに手の指をはさむ	ドアに安全器具をつける。 ドアを外しておく。	ドアの閉め方を教える。
---	------------	---------------------------	-------------

話し合いや発表を通して、子どもの安全に配慮した生活のポイントについて、分かったことをワークシートにまとめさせた。あらかじめワークシートに〈親（大人）が子どもに対して行えること〉〈親（大人）が配慮できること〉というキーワードを与えていたため、ほとんどの生徒が主体的にまとめることができた。

#### 生徒のまとめ

〈親（大人）が子どもに対して行えること〉… 危険であることを教える。見守る。一緒にやる。できたら褒める。しつける。

〈親（大人）が配慮できること〉… 事故の起こらない環境を大人がつくる。危険な物は手の届く所に置かない。鍵をつける。柵をつける。子どもが使う物を工夫する（子ども用のはさみ等）。

また、「もちで窒息」の対処法に「掃除機準備」と答えた班があったため、事故を予防することの大切さとともに、事故の際の適切な対処法（救急法、応急処置）を知っておくことの大切さも教えるよいきっかけとなった。窒息の対処法、手指の止血法、火傷の応急処置も含めて教えることができた。

#### 授業後の生徒の感想

- ・身近なところに子どもにとって危険がたくさんあることが分かった。
- ・子どもは大人の常識では考えられないことをするため、親はいろいろな角度から危険性を考えていかなければならないことが分かった。
- ・もし実際に事故が起きたら、落ち着いて行動できるか不安に感じた。対処法を学びたいと思った。
- ・しつけは大切。時には厳しく、できたら褒める！

#### カ 14・15 時間目の授業 【適切な解決方法を探求させる活動】【ワークシートの工夫】

「子育てに関わる問題について考える」

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の学習課題を確認する。	
展開	<p>○〈グループワーク〉 子育てシミュレーション ～ある家族の1日～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの説明を聞く。</li> <li>・班ごとに与えられた条件にしたがって、家族それぞれの1日のスケジュールを考える。</li> <li>・発表のまとめのプリントに記入する。</li> <li>・ワークを行ったり、他の班の発表を聞いたりして気付いたこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各条件における子どもの年齢と生活リズム、親の勤労形態の違いを提示する。 【資料3】</li> <li>○子育て支援サービスを利用する際のヒントとして、サービスの利用対象や条件などをまとめた「子育て支援カード」を提示する。</li> <li>○育児に関わる時間だけでなく、仕事や家事、自分の身の回りのことをする時間も考えさせる。 【資料4】</li> <li>○発表の際、スケジュール作成の理由を説明させる。</li> <li>○発表を聞きながら「発表まとめプリント」に記入させ、条件の違いによるスケジュールや問題点の違いに気付かせる。 【資料5】</li> </ul>

	と、育児の問題点などをまとめる。	○子育て支援サービスでは補えきれないもの、すべて任せてはいけないものがあることに気付かせる。
まとめ	○本時の学習内容のまとめをする。 ○次時の学習内容を知る。	○感想、自己評価をワークシートに記入させ、提出させる。

14・15 時間目では、グループに与えられた「家族の1日のスケジュール」を家族員ごとに考えさせた。その際、4パターンの家族構成（構成員の年齢、生活リズム、勤務形態）を設定し、そのうちの一つを班で検討させた。

14 時間目に課題と条件を示したワークシート【資料3】とスケジュール作成プリント【資料4】、子育て支援サービスを利用する際のヒントとして、サービスの利用対象や条件などをまとめた「子育て支援カード」を提示し、ワークの手順を説明した後、スケジュールを作成させた。

### 【資料3】

#### 1 4 子育てに関する問題について考えよう。

##### グループワーク

##### <テーマ>

「子育てシミュレーション～ある家族の1日～」

##### <課題>

○自分たちがパパ、ママになったつもりで家族それぞれの1日のスケジュールを考えよう！

\*与えられた条件でスケジュールを考えること。

\*育児に困ったときは「子育て支援カード」を参照。

\*「子育て支援カード」に書いてある社会的なサービスを利用する際はマーカーで印をつけよう！

##### <条件>



1 ・ 2 班	子ども：6カ月 ママ：専業主婦 パパ：会社員（総合職） 出勤：7：30 帰宅：21：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	<b>6カ月児の基本スケジュール</b> 7：00 起きる・おむつ替え 8：00 授乳・おむつ替え（計30分） 10：00 授乳・おむつ替え（計30分） 10：30～12：00 ねんね・起きたらおむつ替え 12：30～13：30 離乳食・授乳・おむつ替え・抱っこ 15：00～16：00 ねんね・起きたらおむつ替え 授乳・おむつ替え（計30分） お風呂（30分） 20：00～22：00 ねんね・起きたらおむつ替え 22：30 授乳・おむつ替え（計30分） 23：00 ねんね *30分のお散歩タイムを入れる	
	3 ・ 4 班	子ども：6カ月 ママ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（総合職） 出勤：8：00 帰宅：21：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	
5 ・ 6 班	子ども：3歳 ママ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（事務職） 出勤：8：00 帰宅：17：30 休日：土曜、日曜	<b>3歳児の基本スケジュール</b> ・7：00 までには起きる ・食事は3回と午後におやつを食べる（手洗い・排泄・食事時間で計1時間） ・うんちタイムは朝・夜の1日2回食後 ・午後にお昼寝（2時間） ・夜にお風呂（30分） ・20：30 には寝かせる	
7 ・ 8 班	子ども：3歳 ママ：会社員（総合職） 出勤：8：00 帰宅：19：30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員（営業職） 出勤：7：30 帰宅：22：00 休日：土曜、日曜（休日出勤あり）	<b>その他の条件</b> ・食事作り ・食事片付け ・洗濯物干し ・洗濯物たたみ ・お風呂（1人あたり） ・掃除・整理整頓 ・通勤時間（子どもの送迎含む）	} それぞれ 30分

15時間目は班ごとに発表をさせた。ホワイトボードに、家族員一人一人の1日のスケジュールを行動カード(「授乳」「おむつ替え」「散歩」など)を用いて表示させ、不足部分やポイントなどは直接記入させて説明させた。発表を聞く側の生徒には「発表まとめプリント」に「良い点」と「問題点」を記入させ、設定された家族の違いによるまとめと問題点などの比較がプリント1枚でできるようにした【資料5】。

【資料4】スケジュール作成プリント(概要)

	子ども	ママ	パパ	
5:00				5:00
6:00				6:00
(略)				(略)
23:00				23:00
24:00				24:00
使用した社会的なサービス				
困ったこと				



(発表の様子)

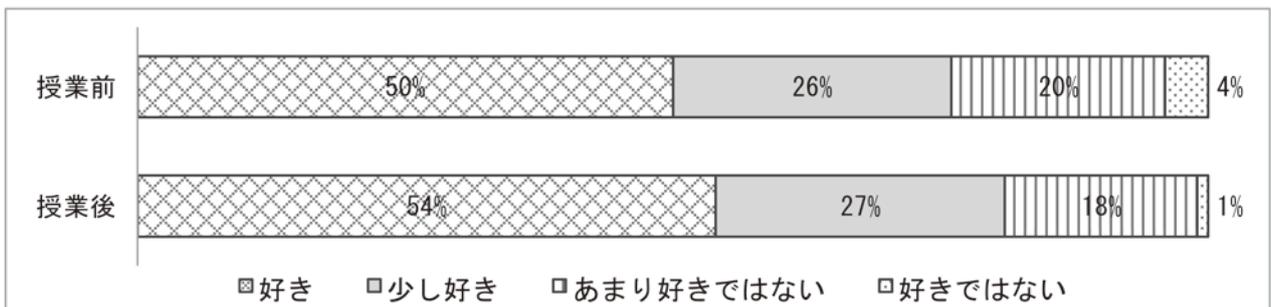
【資料5】「発表まとめプリント」に生徒が記入した内容

1. 2班	子ども：6か月 ママ：専業主婦 パパ：会社員(総合職) 出勤：7:30 帰宅：21:00 休日：土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・赤ちゃんの面倒がゆつくりみられる。散歩などができる。 ・家事も丁寧にできそう。 <b>問題点</b> ・ママに育児の負担がかかりすぎる。ママの息抜きが必要。 ・パパと子どもと一緒に過ごす時間が少ない。
3. 4班	子ども：6か月 ママ：会社員(事務職) 出勤：8:00 帰宅：17:30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員(総合職) 出勤：8:00 帰宅：21:00 休日：土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・職場では育児から解放される。 ・収入の安定。 <b>問題点</b> ・育児休業をとらないと夜遅くまで子どもの世話もあり、ママの体力が続かないかもしれない。 ・パパが子どもと一緒に時間が少ない。ママの負担が多すぎる。 ・粉ミルクになる確率が高い。 ・パパが育児休業をとってもよかったかも。
5. 6班	子ども：3歳 ママ：会社員(事務職) 出勤：8:00 帰宅：17:30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員(事務職) 出勤：8:00 帰宅：17:30 休日：土曜、日曜	<b>良い点</b> ・夫婦で家の仕事を分担できる。子どもと遊ぶ時間がある。 ・パパが子どもの世話をできる。夫婦の時間がある。 ・収入の安定。 <b>問題点</b> ・朝と夜が忙しい。 ・仕事で疲れた時、家事と育児がおそろそかになってしまうかも。
7. 8班	子ども：3歳 ママ：会社員(総合職) 出勤：8:00 帰宅：19:30 休日：土曜、日曜 パパ：会社員(営業職) 出勤：7:30 帰宅：22:00 休日：土曜、日曜 (休日出勤あり)	<b>良い点</b> ・お金は稼げそう。 ・早朝保育、延長保育、ベビーシッターなどを使い、多くの人に子育てを助けてもらえる。 <b>問題点</b> ・両親とも忙しすぎる。パパは子どもとほとんど会えない。 ・朝と夜1時間しか子どもと会えない。親の役割が果たせないのでは？ ・親の夕飯の時間が遅いから体に悪い。

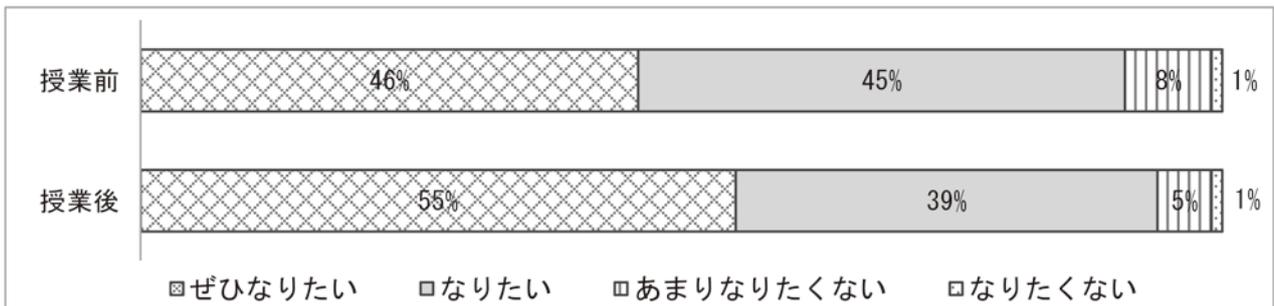
(6) 授業後の意識の変容調査の実施

ア アンケートによる調査

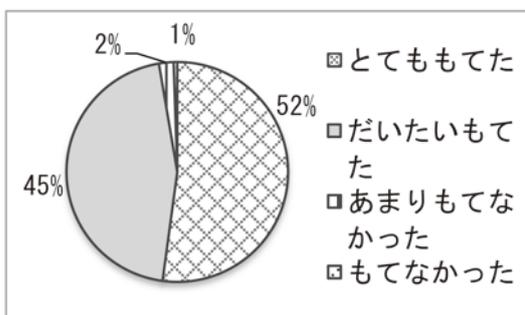
授業実施後のアンケートでは、81%の生徒が「子どもが好き・少し好き」と答えた【図5】。また、94%の生徒が「親にぜひなりたい・なりたい」と答えた【図6】。授業実施前より数%ではあるが子どもや子育てに対してプラスに捉える生徒が増加した。ほとんどの生徒が「乳幼児について関心がとてももてた・だいたいもてた」【図7】、「親として子どもとどのように関わるか考えることがよくできた・だいたいできた」【図8】、「乳幼児についてよく理解できた・だいたいできた」【図10】と答えているが、「親として子どもとどのように関わるか意見を述べることがよくできた・だいたいできた」と答えた生徒は87%であった【図9】。子どもや子育てに対して関心を持ち、考え、理解はできても、自分の意見を述べることはできない生徒がいたことが分かった。



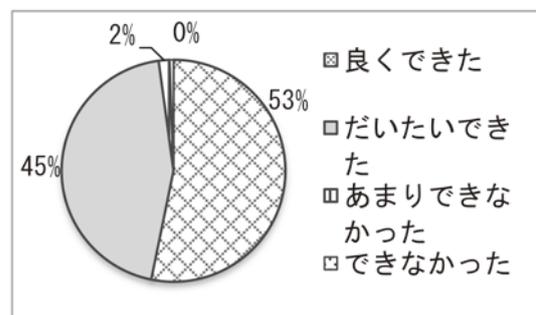
【図5】子どもが好きですか



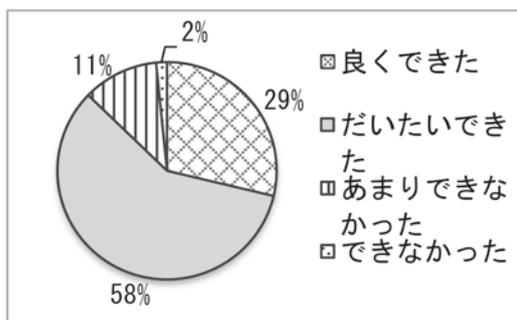
【図6】将来親になりたいですか



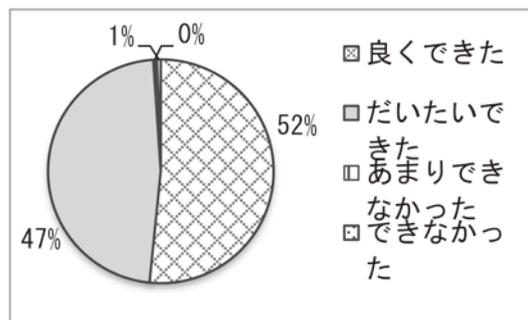
【図7】乳幼児に関心がもてた



【図8】子どもとどのように関わるか考えることができる



【図9】子どもとどのように関わることができた



【図10】乳幼児について理解できた

授業後のアンケートの中での自由記述意見を以下に挙げる。

○保育分野の授業についての意見を書きましょう。

- ・グループで意見を出し合うのが楽しかったし、とても考えさせられた。(大多数の生徒が回答)
- ・グループでの意見を出したり発表したりするのが苦手だったが好きになった。自信がついた。
- ・グループ活動はちょっと苦手です。(一人の生徒が回答)
  
- ・子育てはいろいろ大変だったり考えなくてはならないことがあったりすることが分かった。
- ・子どもについて知っているようで知らないことがたくさんあることが分かった。勉強になった。
- ・子どもが苦手だったけれど、いろいろ勉強して子どもが好きになれた。
- ・子どもに関心がなかったけれど、家庭科の授業のおかげでいろいろ知ることができた。家庭科の授業がなかったら何も知らずに大人になっていたと思う。
- ・自分の将来について考えることができた。親になったら勉強したことを生かしたい。
- ・自分が親になるのは想像できなかったけれど、少し自信がもてた。親になるのも良いと思った。
- ・子育てに前向きになれた。
- ・赤ちゃんに触れ合うようなことをしてみたい。
- ・保育園や幼稚園に行って、幼児や乳児と関わりたい。
  
- ・赤ちゃんを抱っこしたことが良かった。イメージが湧き、親になった気がした。
- ・子どもの遊びの授業が楽しかった。子どもと遊ぶときにすぐ使えるからもっと知りたい。
- ・おやつが授業が楽しかった。熱く話し合った。勉強になった。食べ物の大切さが分かった。
- ・おやつだけでなく、夕食とか欠食が多い朝食とかについてもメニューを考えたい。
- ・衣服の授業が楽しかった。今まで服はデザインしか考えたことが無かったから勉強になった。
- ・子どもの服についてもっと知りたいと思った。
- ・スケジュールを考える授業が1番心に残った。1番楽しかった。みんなですごく頑張った。真剣に考えさせられた。すごく大変だった。発表にも気合いが入った。
- ・スケジュールを考える授業が考えさせられた。1日24時間では足りないと思った。
- ・スケジュールの授業でいろいろな制度を学んだが、もっと詳しく知りたい。
- ・スケジュールの授業で、少子化の理由が実感できた。夫婦の協力は大切だと分かった。
- ・スケジュールを考える授業はもっと時間がほしかった。

## イ イメージマップによる調査

生徒の子どもに対する理解と意識を客観的に把握するために、授業実施前と授業実施後にイメージマップによる生徒の意識調査を行った。ともに 10 分間で「子ども」という言葉からイメージする単語を思いっただけ挙げさせ、その関連を線で結んで表現させた。授業実施前と授業実施後の結果を比較することにより、生徒の意識の変容を分析した（有効回答者数 111 名）。

### (7) 単語数による分析結果

授業実施前と授業実施後でイメージされた単語の数による変化は以下の通りである【表 3】。授業実施後には 90.1%の生徒の単語数が増加した。9.9%の生徒には変化が見られなかった。

【表 3】

	平均値	最小値	最多値
実施前の単語数	11.1	1	27
実施後の単語数	18.2	5	42

### (イ) イメージされた単語の内容

【生徒 A】の「子ども」から連想する単語数は授業実施前では 9 個、授業実施後では 26 個に増加した。また、「頭足人」、「喃語」、「延長保育」、「アタッチメント」など少なくとも 16 個の単語において、あきらかに学習内容によるイメージの広がりが見られた。

【生徒 B】では授業実施前では 15 個、授業実施後では 16 個とほとんど変わらないが、授業実施後では、「父」→「母」→「協力」、「安全」→「環境」→「服」、「事故」→「病気」→「ワクチン」など、学習内容によるイメージの広がりが見られた。

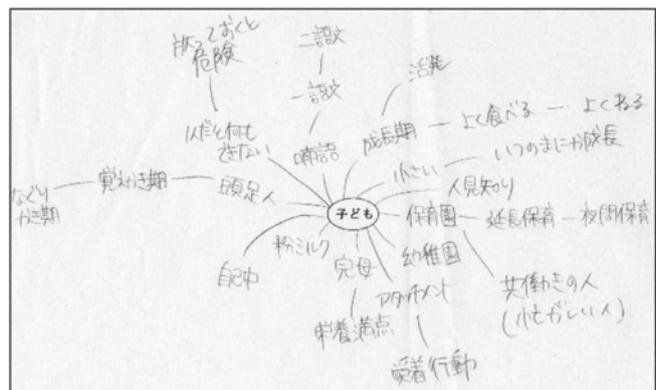
このような変化はこの 2 人の生徒だけでなく、10 個以上の単語を連想できたほとんどの生徒で確認することができた。

【生徒 A】 授業実施前

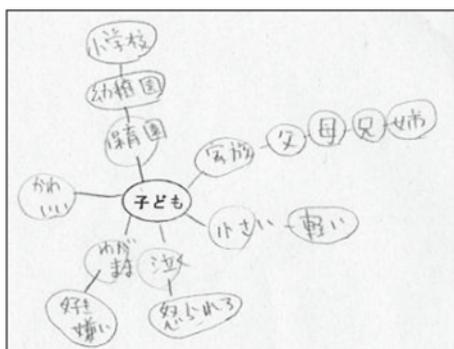


→

授業実施後

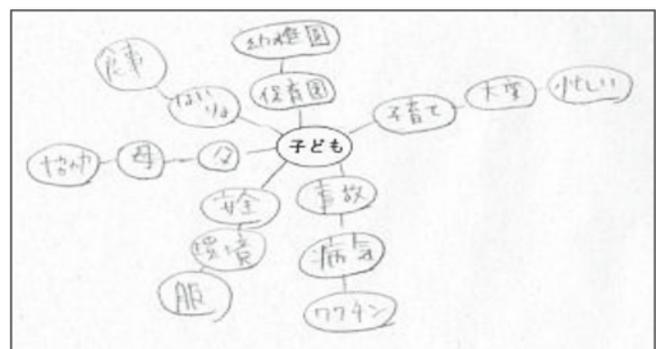


【生徒 B】 授業実施前



→

授業実施後



### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、子どものイメージを想起させるような学習教材とその活用法を工夫するとともに、ケーススタディやペアワーク、グループワークなどを用いて生徒自らが考える授業を行い、子どもに対する関心を高めさせるように努めた。子どもを育てる上で起こり得る身近な問題について話し合い、意見や理由をまとめたり、問題の解決方法を探求したりすることによって、学習内容の理解を深め、子育てを自分たちの課題として認識し、子どもと関わろうとする態度を育成することを目指した。

毎時間の取組として、授業内容のまとめや感想を書かせた。その際の工夫として、ワークシートに行罫線を入れ、記入させる時には「5行以上書こう！」などの声掛けを行った。すべての生徒が回を重ねるごとによく書けるようになった。また、まとめの記入欄にあらかじめ教師が意図するキーワードを記入しておくことにより、まとめることの苦手な生徒も考えを整理しながら取り組むことができるようになった。

生徒の授業後アンケートの結果から分かるように、生徒はケーススタディやペアワーク、グループワークなどを行うことで学習に意欲的に取り組み、主体的に考えることができた。これらの活動では、話合いのテーマを明確に設定した。これにより、生徒たちに子育てを自分たちの課題として認識させ、親として子どもとどう関わるか将来像を模索させ、子育てに関する価値観を形成させるのに効果があった。また、今まで子どもに関心がなかった生徒や、子どもについてよく知らないために苦手意識をもっていた生徒に、子どもや子育てに関心や好感、自信をもつようになるなどの肯定的な意識の変容が見られた。さらに、このような学習を繰り返すことによって、生徒の思考の深まりを感じられた。子どもと関わろうとする態度を育成するためには、生徒が主体的に考え、判断し、まとめていく十分な時間を確保するとともに授業内容を精選する必要がある。今回、この単元を計画する段階で、ロールプレイの導入も検討したが、ロールプレイを効果的に行うためのウォーミングアップの時間や台詞の作成時間などを十分に取れないこと、また、生徒の羞恥心が先行し、効果的な活動ができないのではないかとの危惧から取り入れなかった。そこで、ケーススタディを行う際、「相手の心理や立場を考える」というロールプレイの要素を取り入れてみたところ生徒に対する学習効果が高まった。ケーススタディは、本事例の6時間目（ペアワーク「子どもの偏食、夜更かし」）、12時間目（個人での取り組み「頭痛で休園」）、13時間目（グループワーク「危険な行動・事故」）のように、話合いの形態や活動時間を自由に設定できる利点もあった。

14・15時間目の「子育てシミュレーション」は今回の実践において、生徒の意欲の高まりや学習内容の理解の深まりを最も実感した授業であり、生徒の反響も大きかった。来年度以降も継続しようと考えている。

#### (2) 課題

今回の実践では、ケーススタディやグループワークなどにおける話合いを通して、それぞれの意見やその理由をまとめたり、問題の解決方法を探求したりする活動の後、さらに自分のワークシートにまとめる活動を行った。このような活動を通して、生徒のもつ言語に関する能力の差を改めて感じた。よく考え判断しているにもかかわらず、話合い活動では積極的に意見を述べられるがワークシートに書くことが苦手な生徒と、逆に話合い活動には消極的であるがワークシートの記入では十分活動の効果が見られる生徒がいた。発表のみ、ワークシートのみでの評価であると偏った評価になる恐れがある。さらにワークシートの記述内容は評価材料として扱いやすいが、グループワークでの話合い活動の評価に関しては、教師一人ですどのように行えばよいのかという点に

ついて難しさを感じた。生徒の相互評価を利用したり、話合いの過程も教師が把握できるように工夫したりするなど、評価方法の研究も必要である。

## 4 おわりに

今回の調査研究では、「家庭総合」における食生活、衣生活、保育の各分野において、様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したりする活動、適切な解決方法を探求したりする活動を意図的に取り入れ、これらの言語活動を充実させることによって、学習内容の理解を深め、自ら納得した上で、学んだことを生活に生かそうとする態度を育む指導の工夫に取り組んだ。そのために、生徒にとって身近な題材を取り入れた授業研究を行った。各事例の成果や課題から、授業を改善していくために留意したいことを以下に述べる。

### (1) グループワークやペアワークを通して、生活に関して主体的に考える力を身に付けさせる。

各事例ではグループワークやペアワークを取り入れた。グループ（ペア）の中で話し合い、意見をまとめたり、発表したりする活動を通して、学習内容に対する理解が深まり、自ら納得した上で自分の生活の中に取り入れようとする意欲と態度を育むことができた。**事例1**では、期限表示についてグループで調査し考えさせた。**事例2**では、衣生活の健康と安全について考えさせた。**事例3**では、親の役割や子どもの衣生活についてグループで考えさせ、子どもの食生活についてペアで考えさせた。このような複数名での活動を意図的に取り入れることにより、学習内容を単なる知識としてではなく、自分たちの問題として捉えさせ、多くの考え方に触れさせ、生徒一人一人に自分なりの生活に関する考えをもたせることができる。生徒の思考を促す指導方法や多様な学習形態の工夫が大切である。

### (2) 問題解決力、意思決定能力を身に付けさせる。

家庭科で扱う学習においては、家族、環境、消費者問題のような正解が一つとは限らない内容について考えるなど、意思決定に関わる学習も多い。**事例1**では、食品の品質表示から根拠をもって食品を選ばせる活動や水道水とミネラルウォーターについてのディベートを取り入れた。**事例2**では、制服の着こなしについて考察する活動を取り入れた。**事例3**では、子育てシミュレーションなどを取り入れた。「何が問題なのか」「自分はどうするのか」「社会の一員としてどのように行動したらよいか」などを、生徒の思考（価値観）に基づいて主体的に意思決定できるような題材の工夫をすることが大切である。

### (3) 生活理論とともに、実践的・体験的な活動を通して生活の実践力を身に付けさせる。

今回の事例では、学習したことを実際の生活の中で生せるように、**事例1**において、【実習】エコ・クッキング「大根1本を無駄なく使い切る」を取り入れた。体験的な活動を行ったことで、「自分でもできそうだ」という自信と「した方がいい」「することが大切」ということに気付かせて、自分の生活の中でも「やってみよう」「もっと深く学んでみよう」といった実践的な態度を育むことができた。このように、実践的・体験的な活動を効果的に取り入れる工夫をすることが大切である。

これからの家庭科の授業に求められることは、授業を通して学んだことを日常の生活の中で生かしていく力とするために、授業の中で生活に対する自分の考え（価値観）をいかに形成させられるかにあるのではないかと考える。そのためには、学習したことを生活の中で活用させる視点を明確にした教材を使用し、実践的・体験的な学習活動を言語活動と関連付けながら行うことが大切だと考える。本調査研究における事例を、学校や生徒の実態に合わせてアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

◇平成24年度高等学校における教科指導の充実 研究協力委員・研究委員（家庭科）

#### 研究協力委員

栃木県立栃木商業高等学校 教諭 横山 弘美

栃木県立黒羽高等学校 教諭 松本久美子

栃木県立高根沢高等学校 教諭 國嶋 昭子

#### 研究委員

栃木県総合教育センター 研修部 指導主事 鈴木 秀子

高等学校における教科指導の充実  
家庭科  
学んだことを生活に生かす態度を育む指導の工夫

発行 平成25年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>